

第9回FD研修会報告書

2011.3

FD委員会

金沢学院短期大学

目 次

開催にあたって	学長 槻木 裕 ・・・1
I.「授業改善のための学生アンケート」4年間の推移と課題	松井 良雄 ・・・5
II.「金沢学院短期大学の教育を一層充実させるための卒業生アンケート」集計結果	小林 淳一 ・・・29
III.「本学の教育改善」に関する“ポストイット”を用いたグループ討論	
グループ A：学生の向上心の維持	高瀬 孝子
グループ B：学生の向上心の維持	松井 良雄
グループ C：コミュニケーション能力の育成	相良 多喜子
グループ D：短大で学ぶ目的の理解	小林 淳一 ・・・41
IV.第9回 FD 研修会質疑応答	・・・53
IV.閉会の辞 総括	FD 委員長 國田 千恵子 ・・・59
添付資料	
資料 1. 平成 22 年度後期「授業改善のための学生アンケート」集計結果	・・・61
資料 2. 「金沢学院短期大学の教育を一層充実させるための卒業生アンケート」 自由記述一覧と質問紙	・・・75
資料 3. 平成 22 年度「金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業時アンケート」集計結果	・・・91
資料 4.平成 22 年度 第 9 回 FD 研修会 参加者アンケート集計結果	・・・103

開催にあたって

学長 梶木 裕



第9回短大FD研修会 開催にあたって

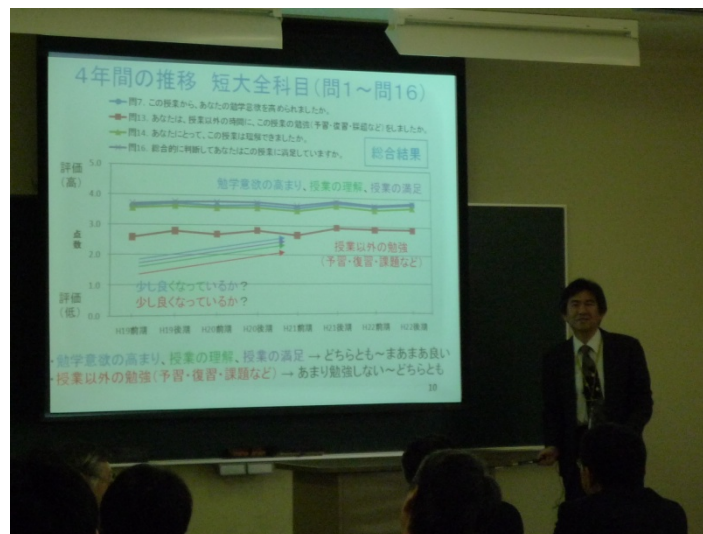
すでに22年度の年度末ですが、今年度、私どもにとって大いに問題なのは、現時点で本短大の2学科の定員割れがほとんど確定状態に近いということです。この2年間、募集状況は順調であったので、年度初めにはこのようなことは予想もしていませんでしたから、どのあたりに原因があるのか、あったのか、しっかりと検討し、直せるところは直していかなければならないと考えています。そんななかで来年度から食物栄養学科を対象にリメディアル教育を—この詳細に関してはまだ詰めている段階ですが—開始することがほぼ決まったことは、来年度の募集活動にとってもいいことであるし、また、FD活動にとっても朗報だと思っています。

さて、本短学のFD活動をさまざまな面でひっぱってこられた岡島厚先生が今年の3月で現役をお引きになります。本短大のFD活動は学院大よりも一歩も二歩も先んじていると思いますが、それはやはり岡島先生の貢献によるところが大きかったと言えるでしょう。私も学院大の自己点検・評価の委員長をやっていたときに色々と先生にご指導をたまわりました。本学のFDの中心をなしておられた先生が退職されるのですから、やはり私ども一人ひとりがしっかりと後を継いでやっていかなくてはならないと思います。折しも募集状況は先に述べた通りですから、よほど腰をすえて、FD活動のみならず、さまざまな改革案を出し合って、それに取り組んでいかなければならない。

そこで、思うのですが、どうやら本短大にあってはFD活動も一通りのことはやってきたわけで、これからは反省期に入ると言いますか、今までやってきたことを土台に、本学の独自の問題点を踏まえた実際的なFD活動に携わっていく必要が出てきているのではないかと思います。今日後半に行われるポストイットのテーマに関してもこのことが反映されていると考えるのですが、どうかして今日のFD研修会の成果が学生募集の明日につながれば—と、そのことを大いに期待して、挨拶にかえさせていただきます。

授業改善のための学生アンケート 4年間の推移と課題

金沢学院短期大学 FD 委員
食物栄養学科 松井良雄



「授業改善のための学生アンケート」4年間の推移と課題

1. はじめに（スライド1～4）

（1）学生アンケート実施（スライド2）

本報告は、4年間8回に渡って実施された「授業改善のための学生アンケート」の経年変化を整理することによって、FD活動の成果・課題・改善などを捉えるものである。学生アンケートは、平成18年度後期に試行され、平成19年度前期から短期大学で開講されているほぼ全科目に対して本格的に実施されており、平成22年度後期までに4年間8回の実績がある。各学期のアンケート数は、90科目～112科目、マークシート2,300～3,400枚程度であり、4年間の総計は、約820科目、マークシート約22,500枚になっている。

（2）報告の概要（スライド3、スライド4）

本報告は、以下の構成になっている。

- ・4年間の推移：短期大学全科目の結果 ……（スライド5～13）
- ・4年間の平均：両学科や科目種の比較 ……（スライド14～20）
- ・入学年度による比較 ……（スライド21～25）
- ・まとめと課題 ……（スライド26～28）
- ・付録：教員による設問について ……（スライド29～32）

なお、以下の各スライドでのグラフの補足説明をする。問1～問16（問15を除く）は、点数が大きいほど評価は高く、最高点は5点である。点数が小さいほど評価は低く、最低点は1点である。問15（当てはまる項目）の縦軸は、受講学生に対する投票学生の割合（%）を示している。問15は平成21年度前期から集計方法を変更したため、結果分析は平成21年度後期以降について記述した。また、問15は自由選択方式になっているため、各学期アンケートで上下変動が大きいのが、特に不正な結果ではない。

2. 4年間の推移：短期大学全科目の結果（スライド5～13）

（1）受講態度と欠席状況、問1～問16（問15を除く）

まず始めに、平成19年度前期から平成22年度年後期に渡るアンケート結果では、年度や前期・後期に関わらず、推移（経年変化）は少ない。しかし、いくつかの設問では向上の兆し（FD活動の成果）も見られることを以降で述べる。

学生自身の回答（スライド6）では、受講態度は「普通～まあまあ良い」、欠席回数は全学生を平均して欠席1回程度である。

教員の努力やシラバス（スライド7）では、先生の声や熱意は「まあまあ良い」、質問や発言のしやすさは「どちらとも～まあまあ良い」、シラバス活用は「少し活用した」である。シラバスの活用は毎回アンケートで低評価であるが、シラバスを授業への興味に利用することなどの改善策が考えられる。

教員の授業方法（スライド8）では、教科書などの活用や、プリントやプロジェクタの見

やすさは「まあまあ良い」、板書の文字・図の見やすさ、ノートを取る時間は「まあまあ良い」の結果が得られた。これらの結果は、教員の授業方法が「かなり良い」ことを表しており、グラフでは僅かではあるが全項目が揃って右上がり傾向を示しており、向上の兆し（FD活動の成果）が得られている。

学生の受講態度（スライド9）では、学生の授業態度、授業妨害する学生、その対応ではどの回答も「どちらとも～まあまあ良い、ほとんどいない、まあまあ適切」である。

総合結果（スライド10）では、勉学意欲の高まり、授業の理解、授業の満足は「どちらとも～まあまあ良い」、授業以外の勉強（予習・復習・課題など）は「あまり勉強しない～どちらとも」である。ここで有られた授業の総合結果（スライド10）は、前述の教員の授業方法（スライド8）と同様に、僅かではあるが全項目が揃って右上がり傾向を示しており、向上の兆し（FD活動の成果）が得られている。

（2）問15：当てはまる項目

授業に対する学生の認識（スライド11）では

- ・ 授業内容そのものに興味がわからない学生……………7%程度の学生が思っている
- ・ 将来役に立つと思っていない学生……………ほとんどいない（良い結果）
- ・ 授業が簡単すぎると思っている学生……………少しいる

授業の難易度（スライド12）では

- ・ 内容が難しい……………25%程度の学生が思っている
- ・ 量が多い……………20%程度の学生が思っている
- ・ 進み方が速い……………13%程度の学生が思っている

学生自身の学力など（スライド13）では

- ・ 自分の基礎知識がない……………23%程度の学生が思っている
- ・ 自分が勉強不足……………18%程度の学生が思っている
- ・ 教室が騒がしい・人数が多すぎる……………回答した学生は少ない（良い結果）

以上により、授業に興味がない学生、授業の難易度、学生自身の学力などで得られた結果も視野において、さらなる授業改善を心掛ける必要があると思われる。

3. 4年間の平均：両学科や科目種の比較（スライド14～20）

（1）欠席状況、問1～問16（一部）

欠席状況（スライド15）では

- ・ 食物栄養学科の方が出席状況は良い
- ・ 食物栄養専攻科は欠席が非常に少ない
- ・ 1年生の方が出席状況は良い
- ・ 専門科目の方が出席状況は良い

先生の声や板書の見やすさ（スライド16）では

- ・ ライフデザインの方が先生の声は大きい（あまり差はない）
- ・ ライフデザインの方が板書は見やすい
- ・ 食物栄養の板書点数が少し劣るのは、理数系の板書が多いから？

予習復習、勉学意欲（スライド17）では、

- ・ 2年生の方が予習・復習・課題を行う
- ・ 専門科目の方が予習・復習・課題を行う
- ・ 勉学意欲の高まりはライフデザインの方が僅かに良い（専門性が強いから？）

授業の満足度（スライド 18）では

- ・ 授業の満足度はライフデザインの方が僅かに良い（なぜか？）
- ・ 食物栄養専攻科の満足度は良い
- ・ 授業の満足度は、1年生科目、2年生科目、教養科目、専門科目、あまり差はない

（2）問 15：当てはまる項目

授業に対する興味・授業が簡単過ぎ（スライド 19）では

- ・ ライフデザインの方が、興味がわからない学生は僅かに少ない（専門性が強いから？）
- ・ 食物栄養専攻科は、授業内容に対する興味については非常に良い状況
- ・ 教養科目では「授業が簡単過ぎた」の回答もある（授業内容の変更が必要か？）

授業の量・基礎知識（スライド 20）では

- ・ 1年生科目は「量が多かった」と感じる学生が 22.3%
- ・ この結果は、「内容が難しい」「進み方が早い」「基礎知識がない」「勉強不足」も同じ傾向
- ・ 自分の基礎知識がないと回答する学生はライフデザインが多い
- ・ 食物栄養専攻科は、自分の基礎知識がないと回答する学生がかなり多い

4. 入学年度による比較（スライド 21～25）

（1）データ分析

このデータは、各年度の1年生科目と2年生科目のアンケート結果を組み合わせ整理したものである。この分析は、本学に入学した学生が、2年間の学生生活に渡って、どのように変化し、2年後にどのような印象を持って卒業するかを判断するものである。さらに、入学年度による学生の相違を比較するものであり、ここには、入学学生数の影響、科目変更の影響、学科改組の影響なども表れると思われる。そして、平成 18 年度入学生から平成 22 年度入学生のアンケート結果より、FD 成果の検証も捉えるものである。

（2）欠席回数、勉学意欲、予習・復習・課題、総合的な満足度

学生自身が、講義の欠席回数を回答（スライド 22）では

- ・ 入学後に、学年が進むにつれて欠席回数が多くなっている。
- ・ 2年生の欠席が多いのは、就職活動が関連するかもしれない。

問 7. この授業から、勉学意欲を高められましたか（スライド 23）では

- ・ 1年生から2年生になると勉学意欲は高まるが、卒業時には少し意欲が下がっている。
- ・ その他に「問 14. 授業は理解できましたか」も同じ傾向である。

問 13. 授業の予習・復習・課題などをしましたか（スライド 24）では

- ・ 1年生から2年生になると予習・復習・課題は良くなるが、2年後期まではもたない。
- ・ これは2年後期科目の授業内容に関連しており、実習科目が多いためかもしれない。

問 16. 総合的に判断してこの授業に満足していますか（スライド 25）では

- ・ 1年生から2年生になると、授業の満足度は高まってくる。

・しかし、卒業時には授業の満足度は少し下がっており懸案事項と言える。

(3) 学生は短大で学ぶ2年間で向上したか

スライド 22～25 によれば、入学年度に関わらず、どの年度に入学した学生もほぼ同じ傾向を示している。このことは、入学学生数の影響、科目変更の影響、学科改組の影響などはあまり強く表れていないことを示している。一方、各入学年度のグラフを見ると、僅かではあるが入学年度が後になるほどグラフが上方（高評価）にシフトしている。これは、教員の授業方法（スライド 8）、総合結果（スライド 10）で述べたとおり、向上の兆し（FD活動の成果）だと思われる。

講義の欠席回数（スライド 22）では、入学後に学年が進むにつれて欠席回数が多くなっており、短大で勉学する基本スタンスや授業に対する興味を保つ観点からも、対応策が必要であろう。さらに、勉学意欲（スライド 23）、予習・復習・課題など（スライド 24）、授業の満足度（スライド 25）では、どの項目も1年生から2年生になると向上しているが、短大最後の学期である2年生後期では減少している。このことは、短大で2年間を学び、集大成として卒業を迎えた際に、本学の印象が好ましくないことに相当しており、非常に残念な結果である。この状況については、小林教員が担当されている「卒業時アンケート」や「卒業生アンケート」の結果とも対応して検証したいと思っている。

5. まとめと課題（スライド 26～28）

(1) まとめ（スライド 27）

これまでに述べた「授業改善アンケート」4年間の推移を要約する。

◎学生アンケートの収録 → 教員アンケートで改善策の提示 → 教員による授業改善の努力、このプロセスによる授業改善（FD）は確実に成果を上げている。

◎学生の状況では、授業に興味なし 7%、内容が難しい 25%、量が多い 20%、進み方が速い 13%、基礎知識がない 23%、勉強不足 18%、授業が簡単過ぎる 4%、が示された。

◎本学に希望を抱いて入学した学生は、学年が進むにつれて、勉学意欲や授業満足度は向上しているが、卒業時には下がっている。

(2) 課題（スライド 28）

上記の「まとめ」を鑑み、短大二年間で向学心を維持して社会に羽ばたく教育を目指し、ポストイットで取り組む課題として下記を提示した。ポストイットの成果は本資料で別掲する。

◎授業の基本

入学時に受講態度を徹底して教える

礼儀・礼節・マナー指導、机間指導

欠席、遅刻、ムダ話、イネムリの防止策

◎勉学意欲

授業に興味を持たせ、勉学意欲を高めさせる

シラバス活用 ←→ 授業への興味、勉学意欲

一部の授業では「学生参加型授業」の可能性

◎さらに

授業参観、教員間の情報交換や連携

基礎学力（リメディアル教育）、資格取得サポート

6. 付録：教員による設問について（スライド 29～32）

（1）設問の例（スライド 30）

ここに述べた「授業改善のための学生アンケート」では、講義・座学科目でも、実習・実験科目でも、統一したマークシート用紙を使用している。そのため、科目種によっては、あまり適切でない設問もある。または、マークシート以外の設問を設けたいケースもある。そのために、問 17～問 20 は授業担当教員が自由に設問できる体制になっている。しかし残念ながら、自由設問を活用している教員はごく少ない。スライド 30 には、講義科目で分かり難い内容を収録する例題、資格試験について学生の動向を捉える例題を紹介した。

（2）結果の例（スライド 31）

上記の設問に対して、学生が記入したマークシート → データ集計 → 集計結果のグラフ表示の手順を例示した。問 17～問 20 の設問形式については、問 1～問 14、問 16 と同様に 5 段階評価の設問でも良く、または、問 15 やスライド 30 に示されるように①～⑤を複数選択可能な形式でも良い。本スライドの「データ集計」は、アンケート収録後に科目担当教員に送付される集計結果に記載されているので、設問に応じて各教員がデータ表示・グラフ表示出来る形式になっている。問 17～問 20 の教員設問や、裏面の自由記述欄を利用すると学生の意見が得られるので、ぜひ多数の教員が活用することを期待している。問 17～問 20 の教員設問の利用方法などについては、学生アンケート担当の松井までご連絡頂きたい。

（3）最後に（スライド 32）

授業にて「エンマ帳を Excel で作りたい」「PowerPoint で講義資料を掲示したい」などのコンピュータ利用について、どのような質問でもお寄せ下さい。今後も「授業改善のための学生アンケート」にご協力をお願い致します。

授業改善のための学生アンケート 4年間の推移と課題



マークシート用紙

金沢学院短期大学
FD委員
食物栄養学科
松井良雄

1

スライド1

学生アンケート実施

アンケート試行

平成18年度（後期）…… 10科目 …… 337枚

生活デザイン学科、食物栄養学科

平成19年度（前期）…… 110科目 …… 3027枚

（後期）…… 98科目 …… 2404枚

平成20年度（前期）…… 109科目 …… 3010枚

（後期）…… 98科目 …… 2301枚

ライフデザイン総合学科に改組、集計変更

平成21年度（前期）…… 92科目 …… 3161枚

（後期）…… 90科目 …… 2497枚

専攻科のアンケートも実施

平成22年度（前期）…… 108科目 …… 3382枚

（後期）…… 112科目 …… 2680枚

4年間
推移

2

スライド2

報告の概要

(1) 4年間の推移 短期大学全科目の結果

(2) 4年間の平均 両学科や科目種の比較

- ・学生自身が受講態度と欠席回数を回答
- ・問1～問16(授業方法、勉学意欲や理解)
- ・問15. 授業について当てはまる項目

(3) 入学年度による比較

- ・平成18年度～平成22年度入学生
- ・学生は短大で学ぶ2年間で向上したか？

(4) まとめと課題

(5) 付録: 教員による設問について

3

スライド3

授業改善のための学生アンケート

このアンケートは学生の皆さんが受講した授業科目を今後より一層充実させるため、実施するものです。成績評価とは全く関係ありません。敬請の御協力をお願いします。

1. あなたについて、お尋ねします。当てはまる箇所をマークしてください。

学 科	専攻	学年	受講態度	欠席回数
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

2. 授業について、お尋ねします。以下の各項目についてあなたはどのように感じたり思ったり、感じたりしましたが、各項目について当てはまる箇所をマークしてください。

1. 先生の声は聞きやすかったですか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 授業の文字・図は聞きやすかったですか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. ノートをとる時間はありましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 教科書・参考書・教材資料などは活用されましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. プリント・ビデオ教材・プロジェクター・黒板などは活用されましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 授業中授業後、質問や発言がしやすかったですか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. この授業から、あなたの勉学意欲を高まりましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. この授業を受けている学生の受講態度はあなたから見てどうでしたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 授業内容(課題・私語・携帯電話・服装)など、授業以外のことで、先生を気遣いましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 知っていることの場合、授業内容を学ぶ学生に対して適切な対応はありましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. あなたは授業の「講義録(シラバス)」を活用しましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. あなたは、授業中の時間(休憩時間や授業後)に、この授業の勉強(予習・復習)をしましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. あなたにとって、この授業は理解できましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15. この授業について、次の項目のうち当てはまる箇所をマークしてください。(複数回答可)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16. 総合的に判断してあなたはこの授業に満足していますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17.	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18.	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19.	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20.	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※この授業について意見があれば、裏面に、自由に記入してください。

金沢学院短期大学

学生自身が回答
(受講態度と欠席回数)

問1～問14
授業方法、勉学意欲
授業態度や授業妨害
予習・復習、授業の理解

問15 授業について
当てはまる項目(複数可)

問16 総合: 授業の満足

問17～問20 教員設問

4

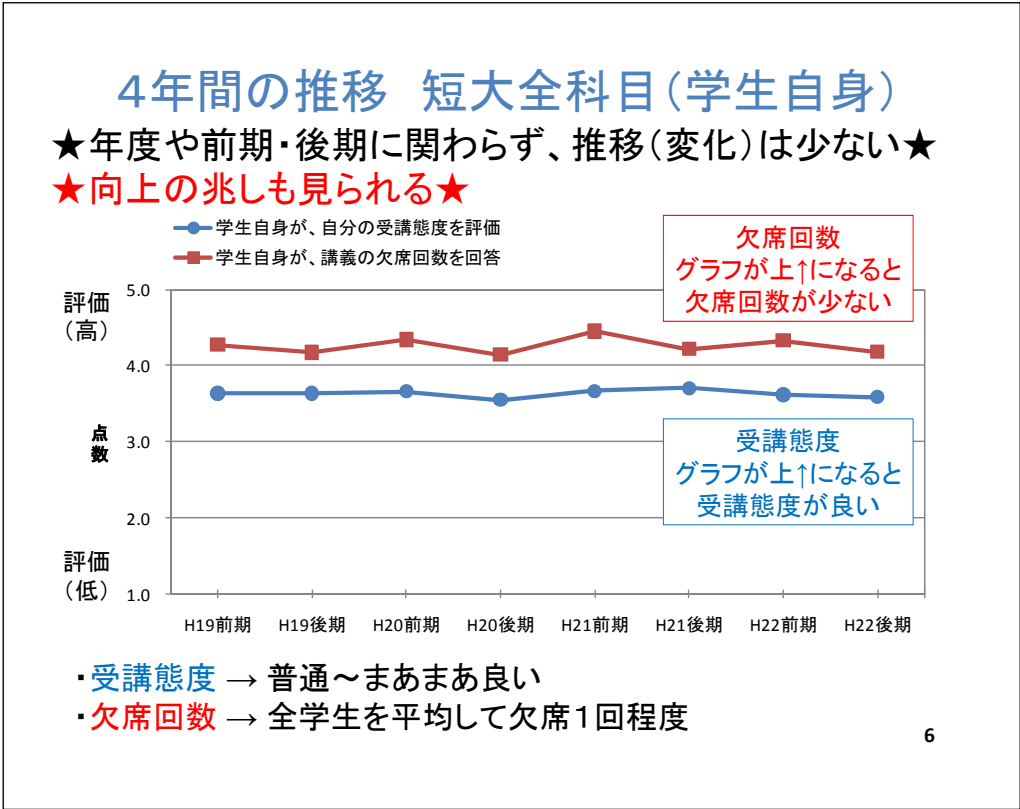
スライド4

(1)4年間の推移

短期大学全科目の結果

5

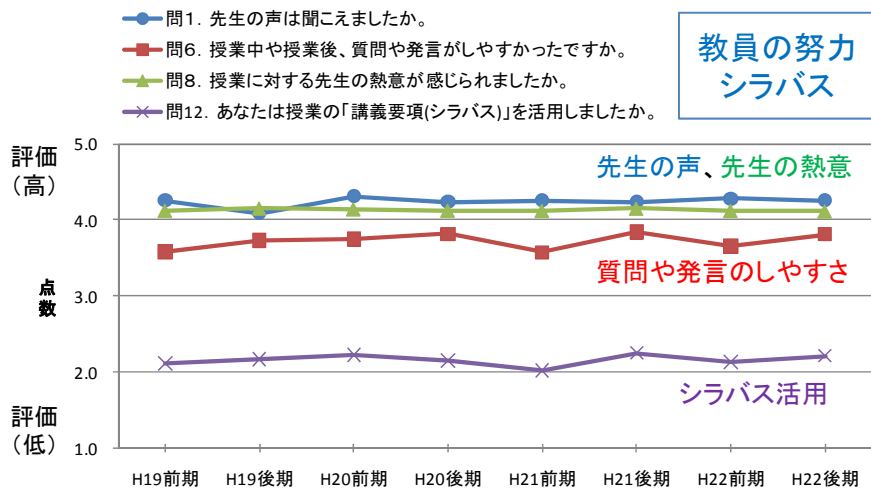
スライド5



6

スライド6

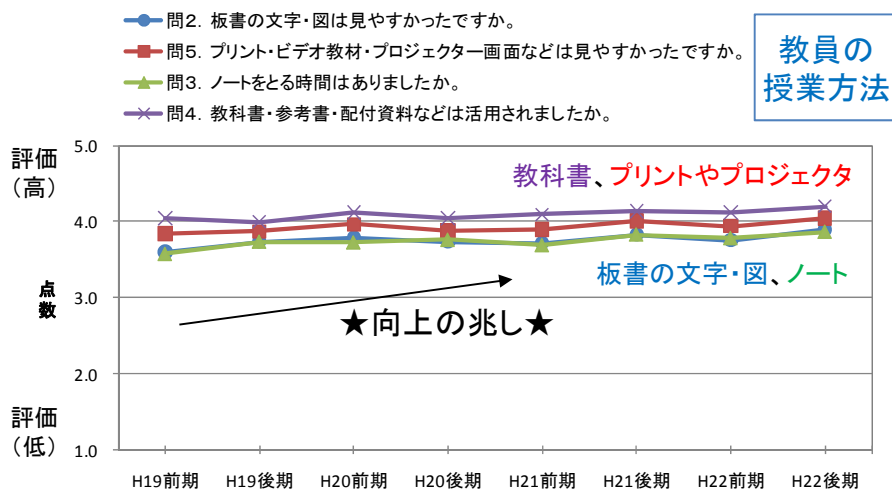
4年間の推移 短大全科目(問1～問16)



- ・先生の声、先生の熱意 → まあまあ良い
- ・質問や発言のしやすさ → どちらとも～まあまあ良い
- ・シラバス活用 → 少し活用した (← 授業への興味に利用) 7

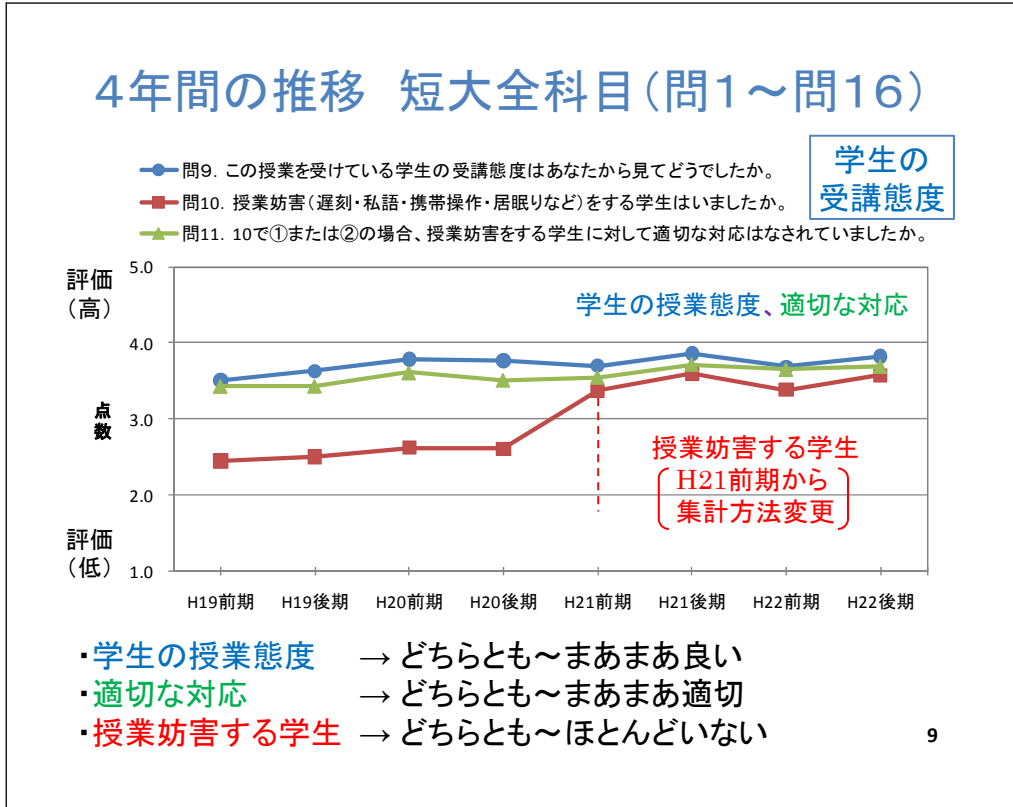
スライド7

4年間の推移 短大全科目(問1～問16)

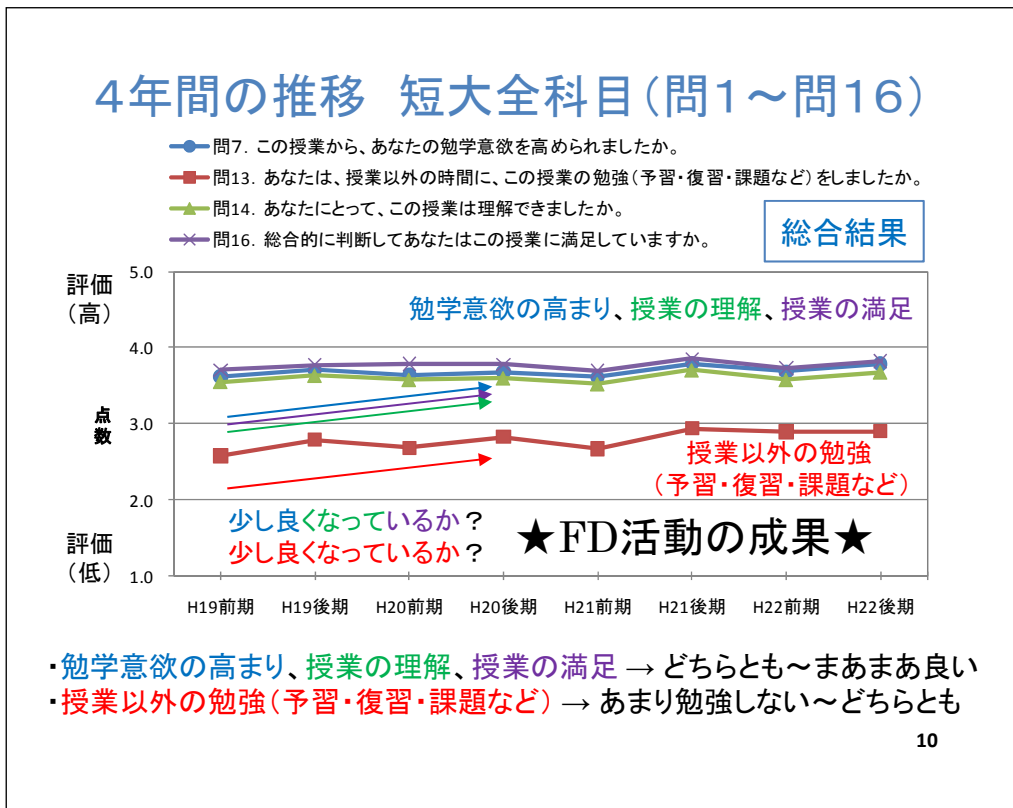


- ・教科書などの活用、プリントやプロジェクタ → まあまあ良い
- ・板書の文字・図の見やすさ、ノートを取る時間 → まあまあ良い
- ★教員の授業方法は、かなり良い★向上の兆し★ 8

スライド8

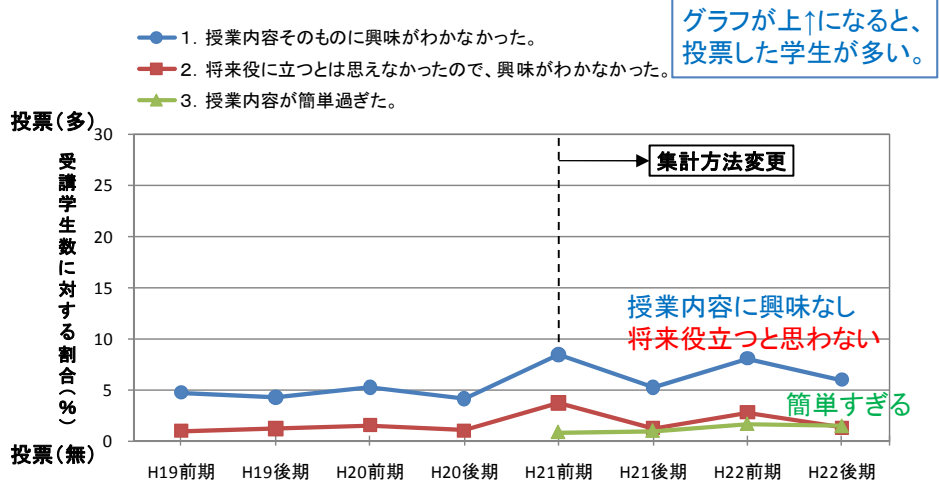


スライド 9



スライド 10

4年間の推移 短大全科目(問15:当てはまる項目)

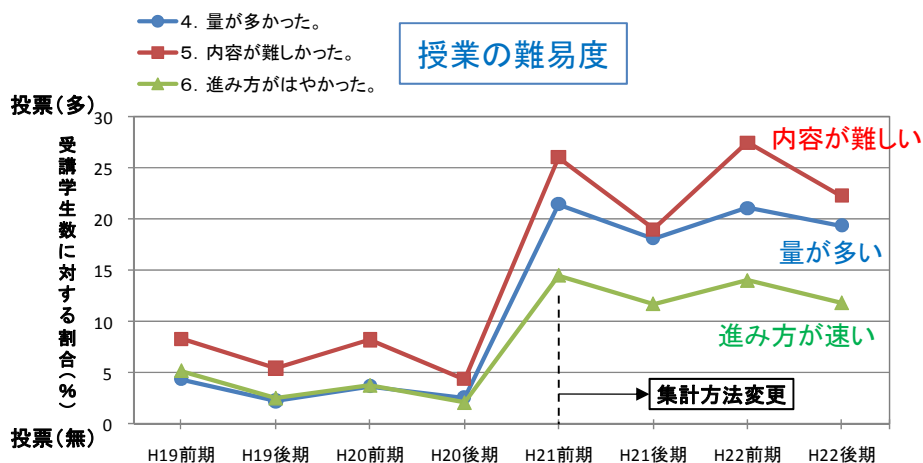


- ・授業内容そのものに興味がわかない学生 → 7%程度
- ・将来役に立つと思っていない学生 → ほとんどいない(良い結果)
- ・授業が簡単すぎると思っている学生 → 少しいる

11

スライド 11

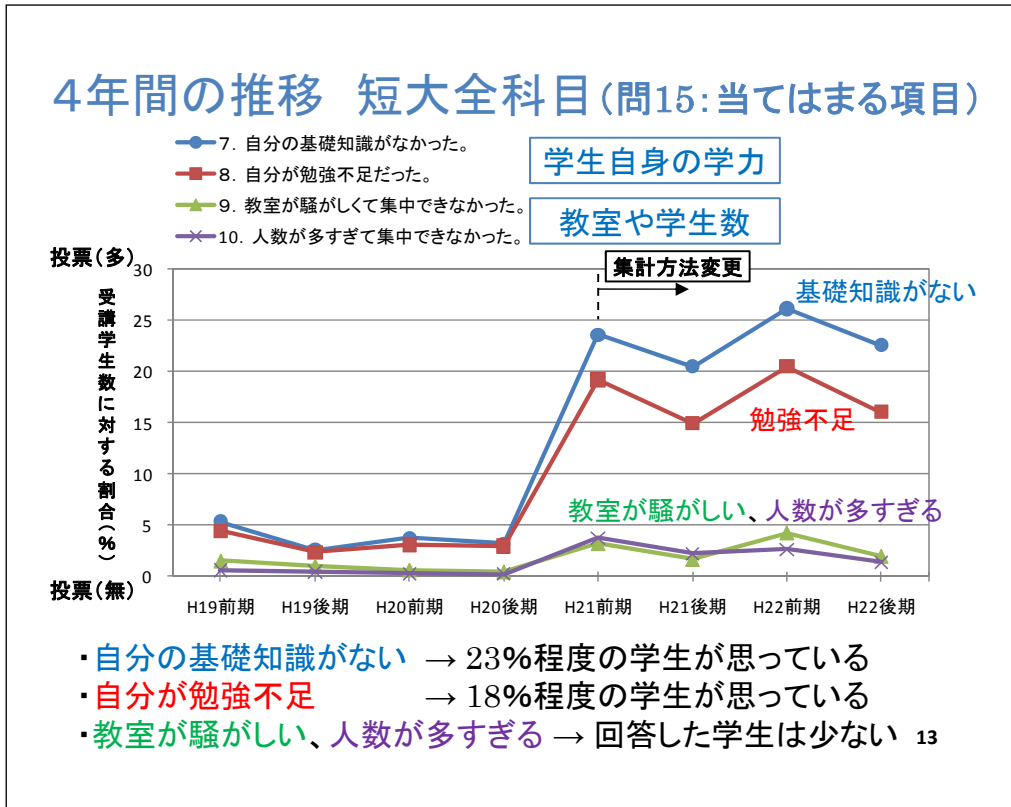
4年間の推移 短大全科目(問15:当てはまる項目)



- ・内容が難しい → 25%程度の学生が思っている
- ・量が多い → 20%程度の学生が思っている
- ・進み方が速い → 13%程度の学生が思っている

12

スライド 12



スライド 13

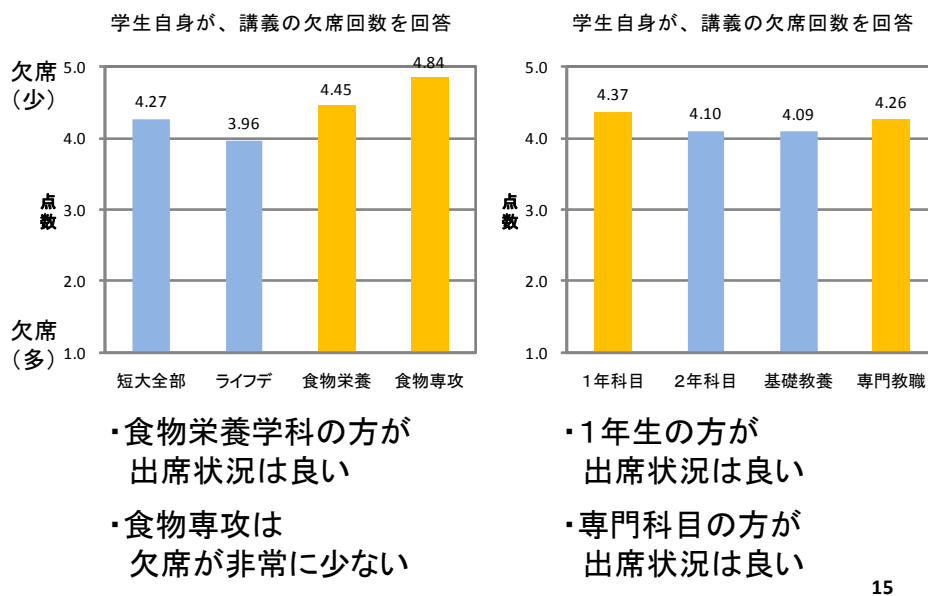
(2) 4年間の平均

両学科や科目種の比較

14

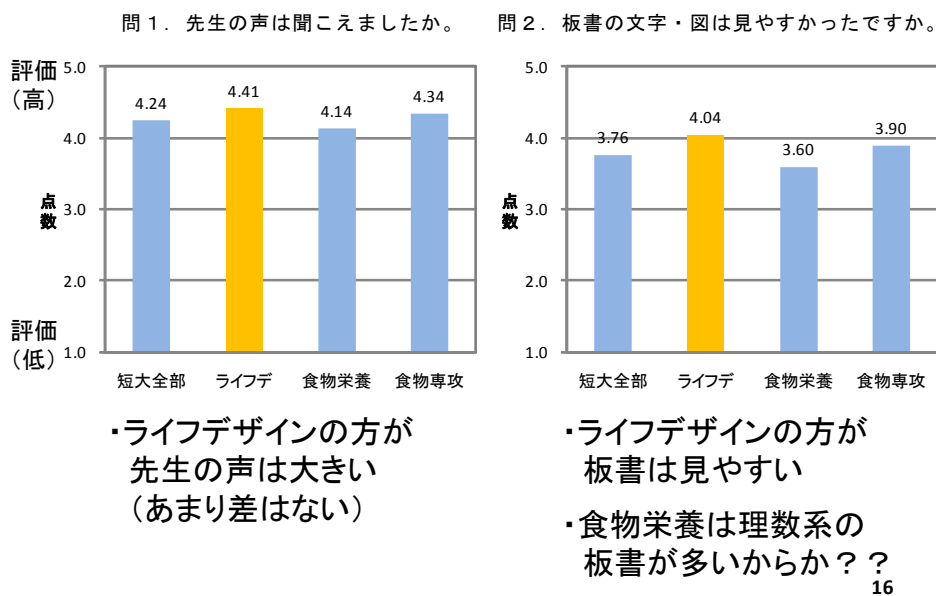
スライド 14

両学科や科目種の比較(欠席状況)



スライド 15

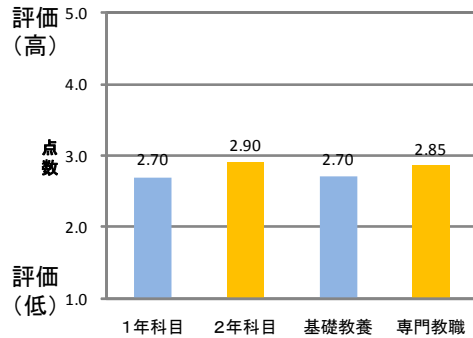
両学科や科目種の比較(先生の声、板書)



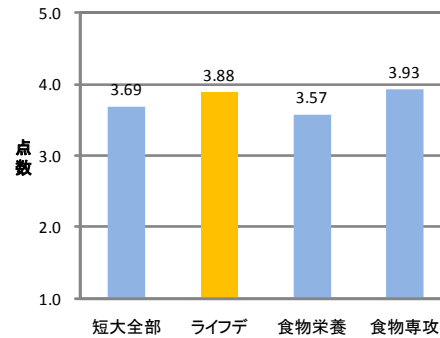
スライド 16

両学科や科目種の比較(予習復習、勉強意欲)

問13. 予習・復習・課題などをしましたか。 問7. あなたの勉強意欲を高められましたか。



- ・2年生の方が予習・復習・課題を行う
- ・専門科目の方が予習・復習・課題を行う



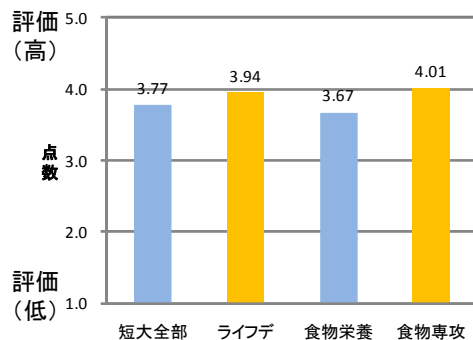
- ・勉強意欲の高まりはライフデザインの方が僅かに良い(専門性が強いから??)

17

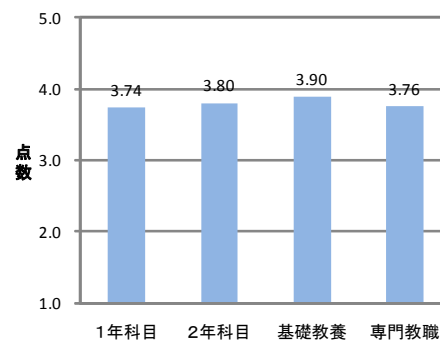
スライド 17

両学科や科目種の比較(総合:授業の満足)

問16. 総合的に判断してあなたはこの授業に満足していますか。



- ・授業の満足はライフデザインの方が僅かに良い(なぜか?)
- ・食物専攻の満足は良い



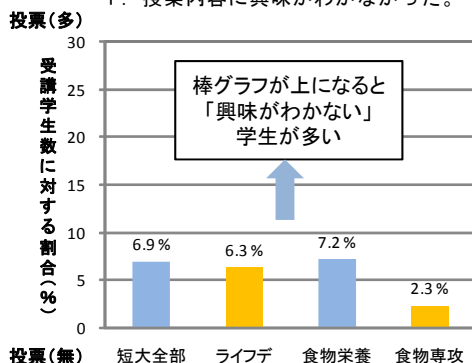
- ・授業の満足は1年生科目、2年生科目、教養科目、専門科目あまり差はない

18

スライド 18

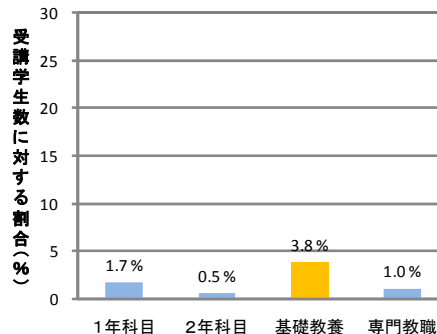
問15(当てはまる項目) 興味湧く・簡単過ぎ

1. 授業内容に興味がわかなかった。



- ・ライフデザインの方が、興味がわかない学生は僅かに少ない(専門性が強いから??)
- ・食物専攻は良い状況

3. 授業内容が簡単過ぎた。

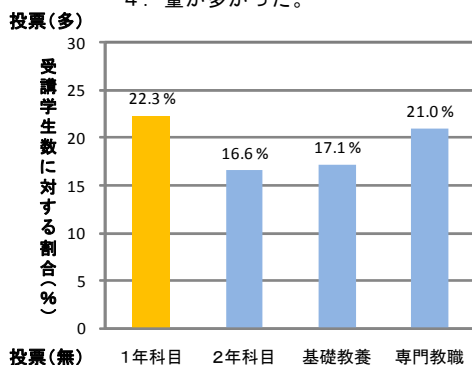


- ・教養科目では「授業が簡単過ぎた」の回答もある。
- ・授業内容の変更が必要?
19

スライド 19

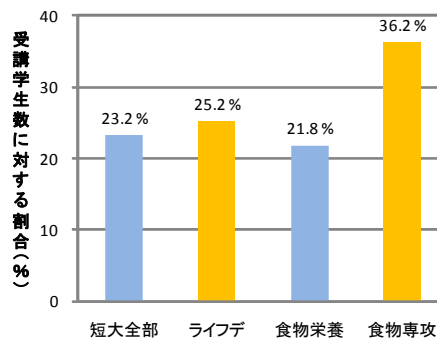
問15(当てはまる項目) 授業の量・基礎知識

4. 量が多かった。



- ・1年生科目は「量が多かった」と感じる学生が22.3%
- ・内容が難しい、進み方が早い、基礎知識がない、勉強不足、も同じ傾向

7. 自分の基礎知識がなかった。



- ・自分の基礎知識がないと回答する学生はライフデザインが多い
- ・食物専攻は更に多い
20

スライド 20

(3) 入学年度による比較

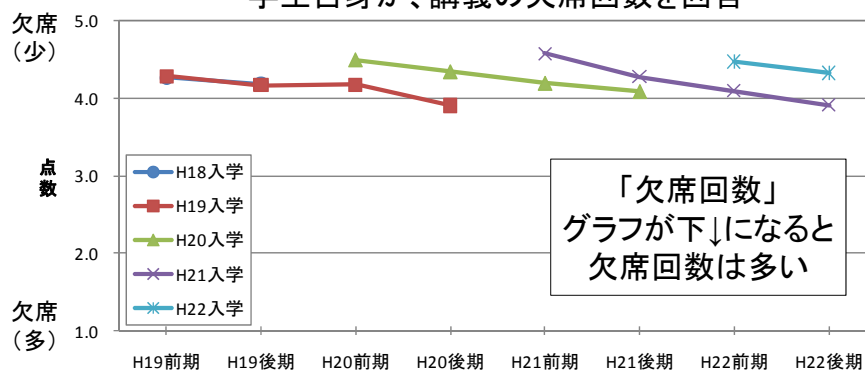
学生は短大で学ぶ2年間で向上したか？

21

スライド 21

入学年度による比較 学生は短大で学ぶ2年間で向上したか？

学生自身が、講義の欠席回数を回答



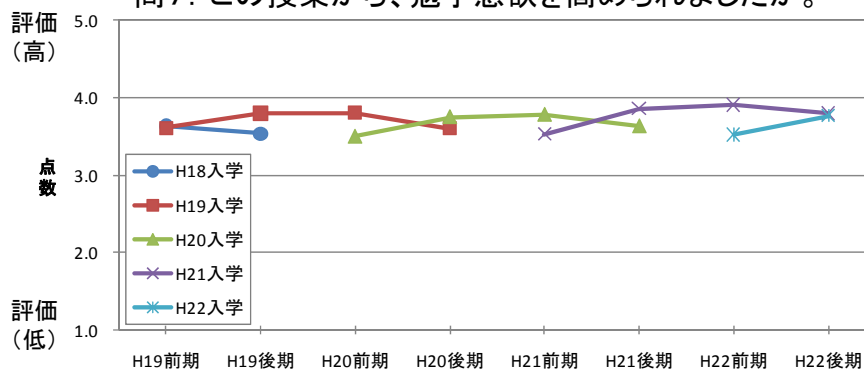
- ・入学後に、学年が進むにつれて欠席回数が多くなる。
- ・2年生の欠席が多いのは、就職活動も関連する？

★入学年度に関わらず、どの年度の学生も同じ傾向★ 22

スライド 22

入学年度による比較 学生は短大で学ぶ2年間で向上したか？

問7. この授業から、勉学意欲を高められましたか。



・1年生から2年生になると勉学意欲は高まってくるが、卒業時には少し意欲が下がる。

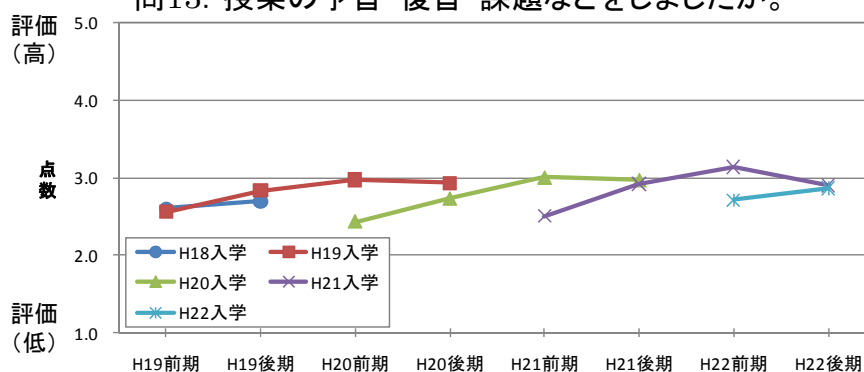
・「問14. 授業は理解できましたか」も同じ傾向

23

スライド 23

入学年度による比較 学生は短大で学ぶ2年間で向上したか？

問13. 授業の予習・復習・課題などをしましたか。



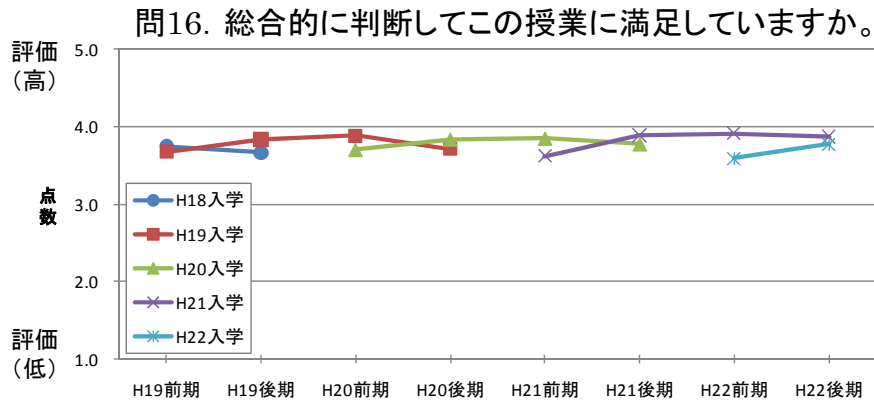
・1年生から2年生になると、予習・復習・課題などは良くなるが、2年生後期までもたない。

・2年生後期科目の内容？

24

スライド 24

入学年度による比較 学生は短大で学ぶ2年間で向上したか？



- ・ 勉学意欲や授業理解と同様に、1年生から2年生になると、授業の満足度は高まってくるが、卒業時には少し下がる。
- ・ 卒業時アンケートや卒業生アンケートで、本学の評価は？²⁵

スライド 25

(4)まとめと課題

26

スライド 26

まとめ

- ◎ 学生アンケート収録 → 教員アンケート → 教員の努力
 <このプロセス>による**授業改善(FD)**は、**確実に成果を上げている**。
- ◎ **学生の状況** → 授業に興味なし**7%**、内容が難しい**25%**、
 量が多い**20%**、進み方が速い**13%**、基礎知識がない**23%**、
 勉強不足**18%**、授業が簡単過ぎる**4%**
- ◎ あえて言うと、ライフデザインの学生は欠席が多い
 あえて言うと、食物栄養の学生は授業への興味や満足度が少し劣る
- ◎ **本学に希望を抱いて入学した学生は、学年が進むにつれて、
 勉学意欲や授業満足度は向上しているが、卒業時には下がっている。**

27

スライド 27

課題(本日のポストイット)

- ◎ **授業の基本**
 入学時に受講態度を徹底して教える
 礼儀・礼節・マナー指導、机間指導
 欠席、遅刻、ムダ話、イネムリ → → 防止策
- ◎ **勉学意欲**
 授業に興味を持たせ、勉学意欲を高めさせる
 シラバス活用 ← → 授業への興味、勉学意欲
 一部の授業では「学生参加型授業」の可能性？
- ◎ **さらに**
 授業参観、教員間の情報交換や連携
 基礎学力(リメディアル教育)、資格取得サポート

★二年間、向学心を維持して、社会にはばたく★

28

スライド 28

(5)付録

教員による設問について

教員による自由設定設問
問17～問20

29

スライド 29

設問の例

授業で分かり難い内容にチェック(複数可)

設問17

- ①第1章: パソコンの構成
- ②第3章: 本体のしくみ
- ③第4章: 入出力装置
- ④第5章: 外部記憶媒体
- ⑤第6章: 音楽と映像機器

設問18

- ①第7章: OSのしくみ
- ②第8章: アプリケーション
- ③第9章: インターネット
- ④第11章: プログラム
- ⑤第12章: 最先端技術

コンピュータサービス技能評価試験(複数可)

設問19: 既に取得した

- ①ワープロ3級
- ②ワープロ2級
- ③表計算3級
- ④表計算2級

設問20: これから取得したい

- ①ワープロ3級
- ②ワープロ2級
- ③表計算3級
- ④表計算2級

30

スライド 30

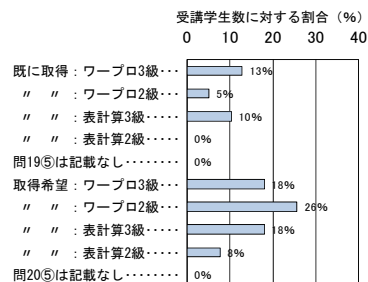
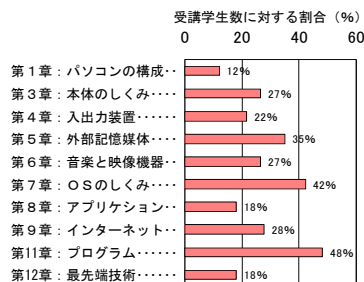
結果の例

マークシート(問17~問20) → → → データ集計

問	担当教員自由設定設問					担当教員自由設定設問				
	①票数	②票数	③票数	④票数	⑤票数	①割合	②割合	③割合	④割合	⑤割合
017	10	22	18	29	22	12.0	26.5	21.7	34.9	26.5
018	35	15	23	40	15	42.2	18.1	27.7	48.2	18.1
019	5	2	4	0	0	12.8	5.1	10.3	0.0	0.0
020	7	10	7	3	0	17.9	25.6	17.9	7.7	0.0

問17、問18 授業で分かり難い内容

問19、問20 コンピュータ資格取得



問17~問20の教員設問や、裏面の自由記述欄
を利用すると学生の意見が得られる。

31

スライド 31

最後に

4年間の推移も参考にして、活発なポストイットをお願い致します。

「エンマ帳をExcelで作りたい」等のコンピュータ利用について、どのような質問でもお寄せ下さい。

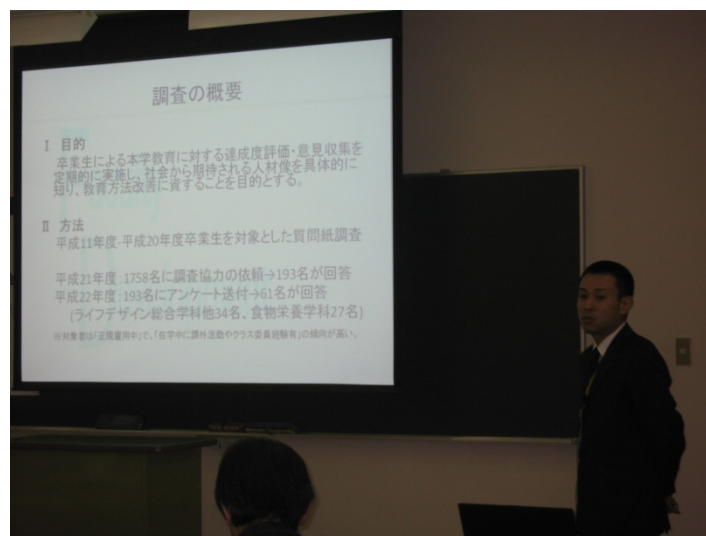
今後も「授業改善のための学生アンケート」にご協力をお願い致します。

32

スライド 32

金沢学院短期大学の教育を一層充実させるための 卒業生アンケート 集計結果

金沢学院短期大学 FD 委員
ライフデザイン総合学科 小林淳一



平成20-22年度私立大学等経常費補助金（特別補助）「教育・学習方法等改善支援」

卒業生による達成度評価システムの構築

金沢学院短期大学の教育を一層充実させるための卒業生アンケート

これまでの進捗状況

平成20年度

情報収集、予備アンケート作成、同窓会「かがり火会」の協力による卒業生住所録の作成

平成21年度

予備調査実施、アンケートの完成、過去10年の卒業生(1758名)を対象として調査依頼を8月に発送→193名が調査に協力と回答。

平成22年度

アンケート送付→平成23年1月25日現在、61名が回答。

結果と考察

I 個人属性について

卒業学科：

ライデ(生活コミュニケーション、生活文化、言語コミュニケーション含む)34名、食栄27名と両学科に大きな偏りはない。

現在の住まい：

石川県34名、富山県13名、その他13名であり、北陸三県で全体の90%以上を占める。

現在の職業：

栄養士14名が最多であり、以下サービス8名、事務員5名と続く。一方で、主婦もしくは求職中が18名と仕事を持たない卒業生も多い。

在学中に取得した資格：

単位充足により卒業時に取得できるもの(栄養士、社会福祉主事任用資格)、学校行事(漢字検定)、授業もしくは対策講座で学べるもの(英語検定、色彩検定)、自分の興味関心(自動車免許)などが挙げられた。

卒業後に取得した資格：

自身の関心と職場の要求に応じて多岐に亘る。管理栄養士は3名。

現在の勉強中の資格：

自身の関心と職場の要求に応じて多岐に亘る。管理栄養士は9名。

II-1 5検法による具体的調査項目について

1)本学の理念や教育方針の成果の検証

・創造性

職場の要求(33名)に対し、在学中の習得は22名であった。

- ・ふるさとへの愛着

職場の要求(22名)と在学中の習得(19名)に大きな差はない。

- ・地域社会に貢献する能力

職場の要求(36名)に対し、在学中の習得は12名であった。

- ・良識と礼節

職場の要求(53名)に対し、在学中の習得は36名であった。細目に注目すると、職場は「要求されている(36名)」、「まあまあ要求されている」(17名)に対し、在学中の習得は「習得できた」(6名)、「まあまあ習得できた」(28名)であった。

考察：

本学の理念や教育方針は、概ね職場での要求に関連している。しかしながら、「ふるさとへの愛着」以外の項目に関しては、職場の要求に比べて在学中の習得がやや不十分であったと認識されている。

2)在学中における知識や能力、学習意欲の習得の検証

- ・専門分野の知識や技術

職場の要求(44名)に対し、在学中の習得は36名であった。

- ・専門分野の知識や技術を応用する能力

職場の要求(43名)に対し、在学中の習得は24名であった。なお、職場の要求が高い一方で、在学中の習得は「習得できた」(3名)、「まあまあ習得できた」(21名)から、必ずしも高く評価はされていない。

- ・事務管理・文書表現能力

職場の要求(40名)に対し、在学中の習得は25名であった。なお、この項目も在学中に「習得できた」は4名、「まあまあ習得できた」が21名と、必ずしも高い評価ではない。

- ・プレゼンテーション能力

職場の要求(33名)に対し、在学中の習得は18名であった。

- ・コミュニケーション能力

職場の要求(56名)に対し、在学中の習得は41名であった。なお本項目は、職場の要求・在学中の習得ともに最も高い数値であった。

- ・リーダーシップ

職場の要求(44名)に対し、在学中の習得は22名であった。

- ・ I T活用能力

職場の要求(45名)に対し、在学中の習得は34名であった。

- ・ 生涯学習の意識・向上心

職場の要求(46名)に対し、在学中の習得は27名であった。

考察：

コミュニケーション能力を始めとした職場の要求する能力に対し、在学中の学業は概ね習得に貢献していると評価されている。しかしながら、在学中の習得よりも、より高い次元で職場が各能力を要求していることが明らかとなった。なお、卒業年度で極端な差は見られないが、事務管理・文書表現能力と I T活用能力に関しては、わずかに年度毎の評価が向上する傾向がみられた。

II-2 自由記述具体的調査項目について

- ・ 仕事中や進学先で力不足・悔しい思いをしたこと

両学科で最も多いのは「コミュニケーション能力不足(協調性)」であった。特に先輩や上司、顧客など世代や立場の異なる人への接し方に多くの課題を残していた。また、I T活用能力に不足を感じ、真剣に学んでおけば良かったと後悔する卒業生も両学科にいた。

学科別に着目すると、ライデは各分野・職場における I T活用技術とマナー、人間関係、語学に対する回答が多く、食栄は知識と現場での実践能力の乖離に悩むとする回答が寄せられた。

- ・ 勉強し直す機会があれば取り組みたいこと

新たな分野への挑戦よりも、自身の卒業学科・コースで受講できる科目をやり直したいという回答の方が多かった。ライデは I Tと語学、色彩検定やCADに関心があり、食栄は、栄養士としての基礎知識、管理栄養士受験対策の知識、医療に関わる知識という意見が多かった。

- ・ 卒業生の視点からの率直な意見

上記の項目と関連し、卒業後も本学に戻って学べる配慮を期待する意見があった。また、幅広い知識の習得もさることながら、深い専門性を追究するべきとする指摘や、プロフェッショナルを養成してほしいという意見も寄せられた。授業内容に関しては、全体的に「甘い」「楽すぎる」と指摘された。立地条件は概して否定的であった。

学科別にみると、ライデは「様々な試みに挑戦している」という意見もある一方で、「コースが変わり過ぎ」、「color というものが無い」、「自分の卒業コースが無い」、「高校生に説明できない」という否定的な意見もあった。食栄は、調理実習や実験を評価する一方で、特に栄養士として活躍する卒業生から、「教員の少なさ」、「教科の区別のつかない科目がある」、「管理栄養士国家試験対策に不安」という指摘がなされた。

考察：

「コミュニケーション能力の育成」、「IT活用技術の向上」、「理論と実践の融合」、「専門性の深化」の4点が重要な課題であると考察される。また、卒業後に学生時代を後悔しないような教育が必要である。(もちろん極めて困難な課題であるが)

Ⅲ 補足

・調査協力者と在学中の学力の関係

対象者全員の学生時代の学力が把握できたわけではなく、また、数が少ないことから明確な指摘はできないものの、概ね学業成績中位から上位の学生集団が多い。しかしながら、必ずしも上位集団だけではなく、相当下位にいた卒業生も回答している。

・調査協力者と在学中の学生生活の関係

学友会やクラス委員、卒業後のかかり火会委員など、本学や本学教職員との距離が近かった卒業生からの協力が多かった。

考察：

今回のデータは、「それなりに学力が高く」、「本学に関心を抱き」、「現在アンケートに協力する時間的・精神的ゆとりのある」卒業生集団に偏ったことは否定できない。そのため、学習意欲や本学の学びの実態に対して、現実的な改善を期待する厳しい指摘が寄せられたと思われる。

今後の課題としては、多様な卒業生集団に調査を協力してもらえる環境を整備することが肝要であろう。それは、教職員が日頃から学生一人ひとりに適切な指導と温かい支援をすることはもちろんであるが、当時のクラス担任名で依頼するなど、調査方法の工夫も必要であると考えられる。

(小林淳一)

平成20-22年度私立大学等経常費補助金
(特別補助)「教育・学習方法等改善支援」

卒業生による達成度評価システムの構築

「金沢学院短期大学の教育を一層充実させるための卒業生アンケート」集計報告

ライフデザイン総合学科
小林 淳一

調査の概要

I 目的

卒業生による本学教育に対する達成度評価・意見収集を定期的に実施し、社会から期待される人材像を具体的に知り、教育方法改善に資することを目的とする。

II 方法

平成11年度-平成20年度卒業生を対象とした質問紙調査

平成21年度:1758名に調査協力の依頼→193名が回答

平成22年度:193名にアンケート送付→61名が回答

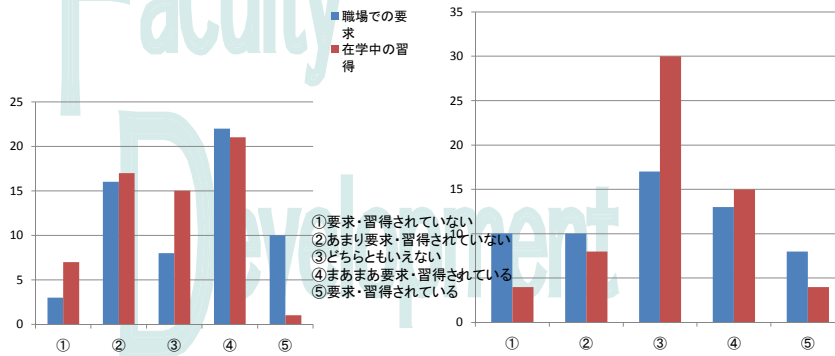
(ライフデザイン総合学科他34名、食物栄養学科27名)

※対象者は「正規雇用中」で、「在学中に課外活動やクラス委員経験有」の傾向が高い。

集計結果①本学の教育理念の検証

物事を創造する能力

ふるさとへの愛着



グラフが右に行くほど、職場での要求・在学中の習得が高くなる。

集計結果①本学の教育理念の検証

地域社会に貢献する能力

良識と礼節

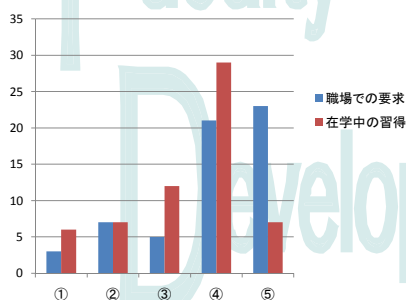


在学中は関心が薄く、卒業後に社会から要求されていることを認識するようになる。

在学中にも習得できているが、卒業後は社会からの要求がさらに高いことに気付く。

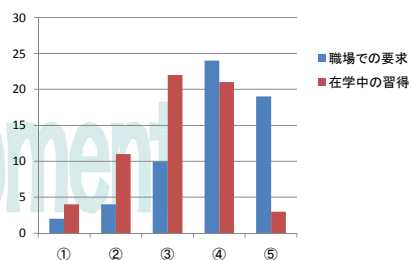
集計結果②専門分野の知識・職業能力の検証

専門分野の実践に必要な能力



概ね習得して卒業し、社会人になってから個々で不足していた部分に気付く。

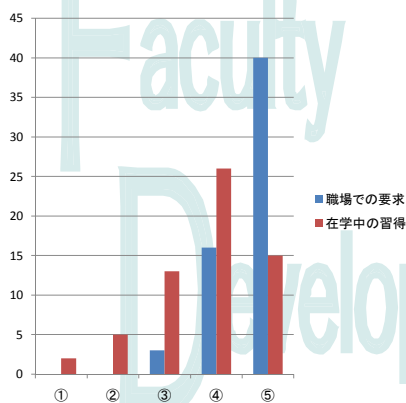
専門分野の知識の応用力



卒業後に社会での要求が高いことに気付く。学生時代には、ここまで学ぶ余裕が無いのでは？

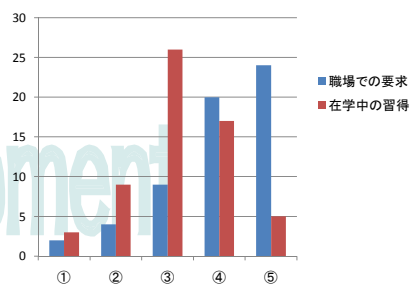
集計結果②専門分野の知識・職業能力の検証

コミュニケーション能力



学生時代(仲間)と卒業後(職場)の「コミュニケーション能力」の捉え方が異なる。

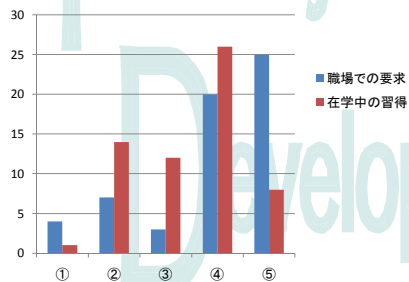
リーダーシップ



若い頃(30歳以下)からリーダーシップを求められているが、学生時代には関心が薄い。

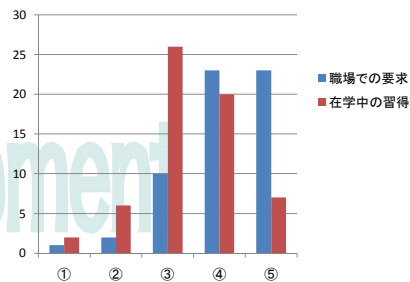
集計結果②専門分野の知識・職業能力の検証

IT活用能力



専門のソフトウェアを扱う職業で、特に要求が高い。経年比較では、少しずつ改善傾向。

生涯学び続ける意欲



資格取得中の卒業生の職場で特に要求が高い。

集計結果③仕事中に感じた力不足(自由記述)

1. 卒業生全体の傾向と特徴

- ・コミュニケーション能力(協調性)について
→先輩、上司、顧客などに対する接し方
- ・IT活用能力

2. ライフデザイン総合学科他の特徴

- ・マナー、語学(特に英語)

3. 食物栄養学科の特徴

- ・在学時習得した知識と現場での実践能力の乖離

集計結果④勉強し直す機会があればやりたいこと
(自由記述)

1. 卒業生全体の傾向と特徴
 - ・新たな分野への挑戦よりも、卒業学科で開講されていた科目の復習を希望。
2. ライフデザイン総合学科他の特徴
 - ・IT(excel・CAD)、資格取得(語学、色彩検定)
3. 食物栄養学科の特徴
 - ・管理栄養士受験対策、医療に関わる知識

集計結果⑤卒業生の視点からの率直な意見
(自由記述)

1. 卒業生全体の傾向と特徴
 - ・卒業後も本学に戻って学べる配慮と条件整備
2. ライフデザイン総合学科他の特徴
 - ・幅広い知識よりも深い専門性を期待
 - ・授業が概して甘く、楽すぎる※対象者集団の特徴?
3. 食物栄養学科の特徴
 - ・科目の区別がつかない
 - ・管理栄養士試験対策の充実※卒業後よりも在学中の要望が多い

教育方法改善の提案

1. コミュニケーション能力の育成

世代や立場の異なる人たちと円滑な人間関係を構築できる、社会人マナーやコミュニケーション能力をいかに育成するか。

2. 短大で学ぶ目的の理解

将来の目標と進路を見据えた学生生活を送らせるには、どのような支援が必要か。

“ポストイット”を用いたグループ討論のテーマ

「授業改善アンケート」から

【課題①】

2年間、向学心を維持して社会に羽ばたく学生を育てる

- ・授業の基本を見つめる
- ・勉学意欲の向上を図る
- ・基礎学力の充実
- ・資格取得サポート etc

「卒業生アンケート」から

【課題②】

社会で役立つコミュニケーション能力の育成

- ・マナーや節度の向上を図る
- ・目上の人への接し方(敬語)

【課題③】

短大で学ぶ目的の理解

- ・早い時期からの進路指導
- ・授業と職業の関連付け

「本学の教育改善」に関する “ポストイット”を用いたグループ討論

全教職員



グループA：学生の向上心の維持

勉学意欲（授業に興味を持たせ、勉学意欲を高める）、資格取得サポート

1. 参加者

ファシリテーター：高瀬孝子

メンバー：中西一夫、栗津原理恵、二階堂修、R.W.カニングム、田畑圭介、
可部野和子、白山ひろみ

2. 討論の概要

「学生の向上心の維持」という討論テーマの下で特に、「勉学意欲」「資格取得サポート」に関して話し合った。まずどのような力が実際に必要となり、学生に身につけてほしいものなのかという大きな理念に関することから、そのための具体的な方策について討論が行われた。

(1) 社会に必要な（学）力をつけるには

- ・社会に出てからは大学での勉強そのものは必ずしも活きないが、現在大学生としてしなければならないことを積極的にすることが役に立つということを説明する。
- ・知識の暗記（決まった答えのある問題）ではなく、答えを探して考えることが重要となる。
- ・社会に出たときに直面する問題を解決するには、その時々でやるべきこと（学生なら授業）に対して真摯に取り組む姿勢が大事であり必要となる。
- ・好奇心を持つことの楽しさをわからせる。
- ・学問はおもしろいという気持ちを持たせる。

(2) 上記(1)での学力に対する意欲を維持させるためには

- ・一生何事も勉強することが必要になるということをわからせる。
- ・目的意識を明確にさせる。
- ・目前の目標（＝人参）を与え、学生（＝馬）がそれに向かって走っているうちに、走ること自体（＝学問）に喜びを感じるようになる。
- ・良い点を評価し、達成できた事に対してほめることにより、学生に達成感を感じさせる。
- ・時折刺激を与える。例：専門家の話を聞かせる等

(3) 資格取得サポートをも含めたさらに具体的な手段

（資格を取ることに勉強することは同じではないということを踏まえたうえで）

- ・奨学金制度や褒賞ポイント制度の充実。
- ・24時間アクセス可能なオンラインコンテンツの確立。
- ・卒業生アンケートの結果（仕事上で自分の能力不足を感じる等）を知らせる。
- ・本を読む習慣をつけさせる。

3. 結論

(1) まず、入学時より目的意識がはっきりしている学生に対しては、向上心や勉強意欲の維持について問題は無く心配する必要はほとんど無い。問題となるのは、自分が何をしたいのかがはっきりしていない学生である。ライフデザイン総合学科の場合は系の選択がなかなか出来なかったり、履修したい科目が無いなどと言う学生である。食物栄養学科の場合は、学科自体の目標は明確であるが、入学が本人の意志ではなかったり、入学後実際の理系専門科目を受講しているうちに自分には向いていないと感じはじめる学生である。そのような学生に対しては、あらゆる機会に上記の2.での討論で論議された方策を試みる必要があるであろう。

今回の討議では、大きく「社会で必要とされる(学)力」とはどのようなもので、それはどのようにして身につけることができるのかというところから話し合いがなされた。これは学生にとって重要であるばかりでなく、教員にとっても日々の仕事に追われている。ややもすれば見失いがちになる恐れのあることを再確認させられた。

(従来FD研修会での討論は話し合うだけで、なかなか具体的に実行に移すことは難しい場合が多かったのであるが、今回、2.(3)であがった、卒業生アンケートの結果を在学生に知らせるという案は、平成23年度入学生を対象とした「フレッシュマンセミナー」での講話「短期大学での学び方」において、アンケート結果の一部を話すという形で実行された。)

(高瀬孝子)

グループ B：学生の向上心の維持

授業の基本（欠席、遅刻、ムダ話、イネムリの防止策）、基礎学力の向上

1. 参加者

ファシリテーター：松井良雄

メンバー：野村孝弘、川村昭子、山岸政雄、山瀬泰吾、藏角利幸、高澤奈々世、清水里美

2. 討論の概要

グループ B では、学生の向上心の維持に対して、主に「授業の基本」「基礎学力の向上」を議題とした。授業に対するマナーを始め、欠席・遅刻・ムダ話・イネムリの現状と防止策、基礎学力アップの施策などの意見が出された。これらの意見を以下の5項目にまとめる。

(1) マナー

- ・授業は、礼に始まり、礼に終わる。これを幼稚に捉える傾向があるが、全教員がこれを徹底する。どの授業でも挨拶の仕方、敬語の使い方を教える。
- ・教室内への飲食物の持ち込み禁止を厳しく。飲食対策としてカフェテリアの充実を望む。
- ・本学は他の学校と違う、ある程度の厳しさを持たせる（授業時の服装、コートなど）。

(2) 欠席・遅刻

- ・出席点の配点割合と欠席回数と合否の相関を予め良く説明する。
- ・アルバイトを抑制して欠席・遅刻を減らす。一人暮らしが影響して欠席や遅刻がある。
- ・出席、欠席を正しく取らなければならない。交通費と欠席の相関を探る必要あり。
- ・遅刻の時間と回数の処理を、教員間で統一する必要がある。
- ・遅刻の罰則規定は、短大と4年制大学と共通にしてほしい。
- ・全学で遅刻者に対して入室時間制限（10分以内）は可能か？
- ・遅刻者には、番号、氏名を大声で言わせる。それをエンマ帳に記入して減点する
- ・コンピュータ講義室が遠いので、授業間の移動に時間が掛かる → コンピュータ授業に遅刻する → 次の授業に遅刻する。これは学生の責任ではなく、講義室配置の問題である。しかし、これによって授業時間が少し削られている。

(3) ムダ話・イネムリ

- ・学生が興味を持てるような話から授業を進める（食物ならダイエットの話など）。
- ・ムダ話をしている学生に、皆の前で話をさせる
- ・ムダ話を注意してもダメな場合、本人を前に出させて、番号、氏名を黒板に書かせる。
- ・ムダ話しないように座席指定。その上で、なおかつムダ話する者は最前列へ座席換え。
- ・ムダ話防止のために、授業内容を考える、学生の行動を意識する。
- ・イネムリ学生に質問する。深夜アルバイトでイネムリする。
- ・イネムリを注意する。回数に応じた罰則をつける。
- ・イネムリは教室が暗くなることも関係している（パワーポイント授業）。

(4) 基礎学力

- ・基礎学力アップの方策として、全授業にて15分間の読書を実施する。
- ・レポートにコメントを記入して返却している。コメント内容は、①この計算は変、②単位が無い、③この数値を平均してどういう意味があるの？、④計算が間違っている、⑤この文章の意味は？、⑥これは日本語か？、などである。
- ・受け身の授業だけでなく、グループ分けて課題に取り組む。
- ・徹底的にノートを取らせる。そして、授業終了時にノートの検印をする。

(5) その他

- ・授業に変化を付ける。授業の進め方、声の大きさ等を工夫する。
- ・座席を指定する。座席の固定化は可能か？
- ・新聞を読まないことが、勉強意欲の低下に関わっている。
- ・新聞を読まないで、日本語が出来ない。
- ・今年度卒業生の中に、資格の権利があるのに取得しない者がいる。全員が資格の申請をするよう指導すべきである。

3. 結論

以上のように提起された問題点から、学生の向上心の維持に対して、実効ある授業改善を確立するために、「遅刻防止」「ムダ話防止」にポイントを絞って解決策をまとめた。

- (1) 多くのメンバーの意見は、遅刻は「直接的な授業妨害になる」である。そして、遅刻学生の振る舞いが、授業に出席している学生の向上心の妨げになるとの共通見解であった。そのため、遅刻学生に「大声で名前を言わせる」、遅刻学生を「ロックアウトする」などの案も出た。しかし、Bグループのメンバーが最も強く切望した事項は、「遅刻に対して、教員間で統一した罰則ルールがほしい」である。
- (2) すなわち、欠席回数は講義要項に明確に規定されているが、遅刻については規定が無く、教員ごとの対応（遅刻とする時間、成績減点など）が異なっている。これにより、学生は遅刻に対する認識がルーズになっている。そこで、遅刻に関する厳しいルールの確立が、Bグループのメンバーから強く望まれた。なお、欠席防止についてはほとんど意見が出なかった。すなわち、欠席よりも遅刻の方が授業に対して悪影響するとの意見であった。
- (3) ムダ話については、イネムリよりも授業妨害になるため、防止策として、「黒板に名前を書かせる」「退室させる」などの意見が出た。しかし、学生に対する指導は、教員個々の対応で構わないとの意見であった。よって、上記の「遅刻の防止策」ほどには問題とならなかった。
- (4) これより、グループBでは、学生の向上心維持における「授業の基本」の実現可能な施策として、「遅刻の防止」を提起した。具体的には、遅刻に対する全学共通（教員間で統一）の規則（罰則）の規定を、教務委員会で検討して頂く、を総括とした。

(松井良雄)

グループC：コミュニケーション能力の育成

1. 参加者

ファシリテーター：相良多喜子

メンバー：槻木裕、加藤哲郎、河内久美子、國田千恵子、吉田貞介、吉田奈美、
茶谷徳靖

2. 討論の概要

コミュニケーション能力の育成について問題点や改善点などを出し合い、意見を交わした結果、次の3項目に分類された。

(1) 「あいさつ」と「敬語」について

- ・敬語の使い方がわからないため、無口になってしまう。
- ・学生同志でしゃべる言葉と先生に対する言葉の区別がついていない。
- ・あいさつを授業の中で重視する。
- ・あいさつは対人関係をよくする。

(2) 「コミュニケーション」について

- ・授業の中で学生に答えを求めるなどコミュニケーションをとる工夫をしても答えたがらない。恥ずかしがる。
- ・食采では専門知識の教育が多すぎるため、コミュニケーション教育はしにくい。
- ・コミュニケーションがとれないという前に話すことがへたな学生が多い。
- ・同僚、仲間以外の人と話をしようと思っても敬語の使い方を知らないため、目上の人と話す与会話がとぎれる。
- ・学生同志のあいさつは限られた者同志でおこなっている。誰でもまずあいさつから始めて話し合えることが必要である。

(3) 「教育面」・「指導面」について

①方法面

- ・まず親の教育が必要である。家庭での教育が崩壊している。
- ・社会に出てからの再教育が必要である。職場における実務的な態度の形成。
- ・自分のことをよく分かっていない学生もいるので自己表現の場を多くつくる。

②内容面

- ・学生と社会ではコミュニケーションの対象が異なることについて理解させる。
A 学生・・・同年代の人、先生は知っている人
社会人・・・上司、同僚、先輩、お客（知らない人、立場の異なる人）
- ・外部と接する機会を増やすことでコミュニケーションをとれるようにする。
- ・プレゼンテーション能力の育成を図る。
- ・学生は校外実習に出たあとでコミュニケーションの大切さを報告してくる。

3. 結論

コミュニケーション能力育成の基本目標

- ・あいさつ
- ・日常会話
- ・自分の考えを相手に伝える
- ・相手の話や考えを理解する
- ・専門分野で指導ができる

目標達成のためになすべきことは次の通りである。

(1) 教育方法改善の提案

①あいさつ、礼節を意識化させるための工夫

- ・普段から敬語を使う。
- ・教職員との会話の際もマナーを守る。
- ・知らない人などとのコミュニケーションは実習的に外へ連れていかないと無理である。
- ・あいさつをしっかりとすることでコミュニケーションがとれる。
- ・コミュニケーションのうち、マナー・礼節までは教えることが可能である。

②コミュニケーション能力を養う授業の工夫

- ・グループで発表する機会が少ないのではないか。入学時段階から卒業までの実施プログラムを立てる。
- ・講義ものの授業より演習の授業を多くする。
- ・グループディスカッション等の授業の充実。
- ・学生が意見を述べたり、プレゼンテーションある機会を授業中に増やす。
- ・授業の中で学外の方との接触を増やす。(内容作り)
- ・第一に Semester でゼミをやり質疑応答、まとめの練習をさせた方がコミュニケーション能力の応用力がつく。

③教育への対応

- ・学内でできること、学外で身につけることを区別して指導する。
- ・インターンシップの充実。
- ・校外実習直前に電話対応の練習をさせる。
- ・日頃の電話対応での練習。
- ・会話や電話対応の場を設定した演習などシュミレーションさせる。
- ・先輩の体験(失敗)談に接する機会を設ける。
- ・短大生と大学生で名刺交換。まずは短大生で行う。名刺作りは外部へ出す。

◎具体的な指導例

- ・ビジネスマナーの講習会を1. 2年生全員対象で開催して必ず受講させることが必要ではないか。
- ・特別に養うとしたら養護施設などのボランティアに出かけること。
- ・教員、仲間とのコミュニケーション能力を養うようにした方が敬語から接し方を含む幅広い応用力がついてよい。
- ・なすべき行動を達成するための指導の手だてを考える。

- ・コミュニケーション能力育成のための具体的な行動目標を洗い出す。

◎具体的な行動内容

- ・身につけるべき能力を整理、体系化して学生に順序を追って理解させる。
- ・授業の際にグループ活動等を通して働きかける。
- ・コミュニケーション能力の一つは「愛嬌」であり、また全般的な基礎力をまとめる力をつける。

4. まとめ

(1) コミュニケーション能力の育成の基本目標

- ①人とのつながりを深める（あいさつ、敬語、応対）
- ②個としての教養を高める（情報収集—メディア・教科書・図書館の活用）

(2) 具体的な行動目標

どのようなステップで行うのか

↓

2年間での具体的な方策をたてる

ビジネスマナー講座、地域でのボランティア

(3) 留意すべきこと

社会で役立つコミュニケーション能力育成のため、さまざまな具体案があげられたが、マナー講座を開催して全員参加させる。また地域の行事に参加したり、ボランティア体験を通し世代や立場の異なる人たちと円滑な人間関係が構築できる土台作りを教職員は働きかけていくことが大切である。

(相良多喜子)

グループD：短大で学ぶ目的の理解

1. 参加者

ファシリテーター：小林淳一

メンバー：西野喜美子、森田一雄、平木孝志、廣根礼子、山本有希、森田由香

2. 討論の概要

本グループは、2010年度に実施された卒業生アンケートの結果を基礎として、「将来の目標と進路を見据えた学生生活を送らせるには、どのような支援が必要か」をテーマとした討論を実施した。その詳細は次の通りである。

(1) 個人作業による問題点の提起ならびに問題点のカテゴライズ

参加者から提案された問題点を関連性・類似性に基づいて討論し、以下の4項目に分類してそれぞれタイトルを付けた。

タイトル①：とりあえず進学・目的が明確でない学生の増加

- ・モラトリアム層が集団化している
- ・何も「したくない」のでとりあえず短大へ
- ・学生の無気力(過去からそうであった。指導されていない)
- ・皆が進学するので自分も何となく
- ・実習は単位のためだけに行っている学生が多い
- ・現場で何を必要としているのかわかっていない
- ・学生の目的意識×、自発的学習×

タイトル②：高校の進路指導の実情

- ・高校で「とにかくどこかに行かせる」指導を受けている
- ・学生が「栄養士」とは何かを知らずに入学してくる

タイトル③：入学試験の実情

- ・入学した目的?(短大選抜の)
- ・入試(面接)時の説明不足

タイトル④：教育・カリキュラムの実情

- ・専門分野の授業割合が少ない
- ・指導する方にも「目的」が無いのでは?
- ・専門分野の細分化
- ・「～につながる」内容だけを伝えている

これら4項目の問題点を、重要度・緊急性に基づいてさらに討論した。その結果、「タイトル

②：高校の進路指導の実情」は、FD活動で改善できる内容ではないこと、「タイトル③：入学試験の実情」は、学生募集の観点からただちに抜本的に改善するのは困難であること、「タイトル④：教育・カリキュラムの実情」は、教員個々の意識改革は必要であるものの、カリキュラムを変更する前に、目の前の学生に向き合う必要があるという理由から、最も意見が多かった「タイトル①：とりあえず進学・目的が明確でない学生の増加」を改善することを、本グループの課題として設定した。

(2) 改善したい課題についての対策

次に本グループの課題「とりあえず進学・目的が明確でない学生の増加」に関する対策を、個々に検討してポストイットに記入し、提案を時系列的に次の3項目に分類した。

提案①：入学前対策

- ・キャンパスガイドの充実
- ・高校への説明の明確化・細分化
- ・学校説明会を学科別で実施
- ・進学説明会を学科別で実施

提案②：入学時～1年前期対策

- ・スタートアップセミナーの活用
- ・履歴書を早期から書かせる動機づけ
- ・すりこみ作業を行う
- ・卒業生の活用

提案③：1年後期～卒業時対策

- ・個別ガイダンスの強化
- ・カウンセリングを通じた時間をとった説明
- ・クラスのレベル分け
- ・進路のカウンセリング充実
- ・単位取得の厳密化

3. 結論

(1) 具体的な改善案について

本グループは、学生のいわゆるモラトリアム層を減らすことが可能であれば、学生集団全体が短大で学ぶ目的を深く理解できるようになるのではないかと結論に至った。その具体的な方法は、上記のように時系列ごとに分けて対策を検討することが肝要であると指摘された。最終的なまとめは、次の通りである。

まず入学前に、説明会や高校訪問によって、本学の授業内容を明確に説明することである。これにより、入学希望者に将来の具体的な目標や進路を想定しやすくなり、目的が明確な学生を増やすことに繋がるのではないかと考えられる。そのためには、キャンパスガイドの内容を充実させることや、学科別に細分化した説明会を実施すること、PRに積極的に取り組むことが必要で

ある。

次に入学時から一年前期までは、主としてスタートアップセミナーを活用した、卒業後の進路に関する早期動機付けをすることである。社会で活躍する卒業生に多くの協力を促し、職業についての夢やイメージではなく、具体的な社会的責任や職務内容を、年齢の近い先輩たちから話してもらったり、希望職種を想定した履歴書を今まで以上に早い時期に書かせることなどを通して、漠然とした希望を現実的な目標に定着させる教育が期待される。

最後に1年後期から卒業までは、授業に対して真摯に取り組ませるため、単位取得の厳密化や講義内容と進路の関連性を説明することなどが重要である。特に成績評価については、丁寧な教授と学生に対する愛情を注ぐ「仏的な一面」と、一定水準に達しない学生を厳密に不可とする「閻魔的な一面」の両方を、短大全体で共有することが今後の課題である。

(小林淳一)

第9回FD研修会質疑応答



「授業改善のための学生アンケート」4年間の推移と課題

質疑応答

二階堂先生

短大生の学びについて二年間で右肩上がりになっていると言いましたがこれは本当ですか？

松井先生

教員の授業方法、勉学意欲、授業時間以外の勉強、授業の理解度、授業の満足度など、関連している項目は、わずかではあるが確実に向上傾向にあります。一方、シラバス活用などは変わっていません。

山岸先生

総合的な満足度が卒業時に少し下がっているが、上がらなければ何もなりません。なぜこのように下がってしまっているのでしょうか？

松井先生

2年間向学心を維持して社会に羽ばたいてほしいですが、実際には確かに少し下がっています。入学当初は緊張して勉学を始めますが、学年が進むにつれて安易に単位が取れてしまうようなケースもあり、また、2年後期になると勉学に対して疲れてきてしまうこともあると思われます。

野村先生

山岸先生のコメントについて、2年後期、学生と実習を行います。就職が決まってくるとだんだん気が抜けていきます。前半の意欲と後半とは変わってきます。一生懸命がんばっている学生でも力が抜けていきます。これが全体の満足度には関係していません。下がってはいますが、満足はしているのではないのでしょうか。

二階堂先生

自分たちの卒業後の目標をどこに置いているのか、短大の必然性なのかもしれませんが、「将来さらに」というところが見られません。

カニンガム先生

アンケートを取るタイミングは、成績が出てから取るとデータが変わると思います。試験が終わった後にアンケートを取る方が良いと思います。

松井先生

試験が終わった後にアンケートを取るのは無理なので、今のところは授業の中で書いてもらうしかありません。それとアンケートに関しては、問17~問20の自由設定設問や、裏面の記入欄を利用して、学生の声を是非聞いてほしいと思います。

「金沢学院短期大学の教育を一層充実させるための卒業生アンケート」

質疑応答

松井先生(フロアへの提案)

卒業生アンケートについて、アンケートを卒業生からたくさん集める方法はないか。他の先生方も協力しながら、多くのデータを集めることのできる方法があったら、みなさん提案していただきたいと思います。

山岸先生

平成 21 年度に生活デザイン学科がライフデザイン総合学科へと改組されましたが、それによる変化や学科改組の効果がありませんでしたら教えてください。

小林先生

本調査は平成 20 年に着手したもので、対象者は平成 11 年度から平成 20 年度卒業生までとなっているため、ライフデザイン総合学科の卒業生はまだ対象になっておりません。しかし本年度実施した平成 22 年度卒業時アンケートでは、ライフデザイン総合学科の一期生が対象となり、本調査と項目の違いはありますが充実度や満足度、要望を調査しています。データ整理と考察がまとまり次第報告いたします。

蔵角先生(感想)

短大生のマナーは向上したかのように思うが講堂の後ろで動向を見ていると、ノートをとらない、しゃべっている、私語が多い。全然わからなくなっています。マナーを言ってもうわの空です。こういう学生をどうしたらよいか。改めてマナー、節度の向上を徹底しないとイケないと思います。ノートのとり方として右 1/3 に予定を左に板書した教員の要点を書くようなノートの見本を作ってあげてもよいのではないかと。マスメディア授業でノートの要点を作って学生に配付したが、日常的な注意をもっとおこなったらよいのではないかと思います。

グループ討論

質疑応答

<グループAに関して>

松井先生(フロアへの提案)

4年間、FD研修会を続けてきて、教職員で色々な話し合いをして、まとめても、具体的な活動に至った改善策が少ないことを非常に残念に思っています。来年度からやれることを考え、ぜひ実行に移したい。Aグループの「卒業生アンケート」の結果を在学生に知らせるといった提案は、全部は難しいが、一部を見せてはどうかと思います。

<グループBに関して>

槻木先生

Bグループに対しては、2点お聞きしたいことがあります。まず1点目、遅刻について、全学共通のルールが必要である。遅刻をした学生に名前を名乗らせる、あるいは名前を書かせる。1回やると遅刻をしなくなるとの話であったが、学生によっては、アメとムチ、ホトケとエンマのムチやエンマになる可能性があり、学生のとらえ方によっては、マイナスになるのではないか。

2点目は、リメディアルと遅刻の関係についてお聞きしたい。遅刻が向学心とどう結びつくのかをご説明いただきたい。

松井先生

1点目のご質問についてです。槻木先生のおっしゃる通り、学生のとらえ方によっては、マイナスになるかもしれませんが、グループBとしては、遅刻をした学生に名前を名乗らせることは、ホトケに近いととらえています。罰を与えるというより、自分の名前を言わせることで、恥ずかしいという思いを感じさせ、遅刻が良くないことを気付かせることに重点をおいているからです。

2点目の質問に関しては、グループBでは、検討すべき課題として「遅刻・欠席・リメディアル」が出てきましたが、最終的には、リメディアルについては、あまり出てきませんでした。先生方の意見としては遅刻を問題にする方が多かったです。また、向学心にどうかかわるかについては、授業の基本としての遅刻、欠席を何とかする。遅刻や欠席が減れば、授業をきちんと受けることになり、いずれは向学心に結びつくと考えます。

<グループCに関して>

二階堂先生

コミュニケーション能力を育成するには、具体的にどうしたらよいかの結論は、出ていますか。

相良先生

「授業中に発表をしてもらおう」とか、「挨拶をしっかりさせる」とか、「日常会話が出来るよう

にする」や、「自分の考えを的確に伝えられるようにする」などです。

学生自身に自覚させることが大切で、具体的には、ビジネスマナー講座を立ち上げます。

<グループDに関して>

栗津原先生

私もグループAで話をさせていただきましたが、「卒業生アンケート」は重要で、短大生にぜひ公開してもらいたいと思います。ただ、回収率の悪いことが危惧されます。アンケート用紙を拝見しましたが、ボリュームが多すぎる気がします。また、ウェブ上でアンケートをとって、回収率を上げるなどの検討もされてはいかがでしょうか。

また、「卒業生アンケート」の集計の仕方、まとめの部分ですが、例えば11ページなどは、スケールが違うので、マックスが低くても高く見えてしまいます。実測値が分かりやすいようにしていただけると有り難いです。

小林先生

データのサンプル数を増やすには、ウェブを使えると良いと思いますが、今回は、2段階で調査をしております。1段階は、まず、調査をさせてもらえるか、協力してもらえるかどうかを尋ね、2段階目に回答のあった学生に、FD委員会で質問内容を検討したアンケートを送付しました。

また、委員会で検討したいと思います。スケールの問題についても、誤解を招かないよう考えたいと思います。

槻木先生

Bグループに近い提案が含まれているDグループに1つ。在学中の学生には、ホトケとエンマで対応するというものでありましたが、もう少し詳しくご説明いただきたい。

小林先生

授業は、優しく、分かりやすく、情報を的確に提供する。また、科目の履修の相談や学生生活等の悩み事については、クラス担任が親身になって聞いてやることを始め、カウンセラーを充実させるなどです。卒業生も有効に活用できれば良いと考えています。ここまでがホトケの部分です。エンマの部分は、欠席に関しては、厳しく、決められた日数を超えたら切りましょう、ということ。授業にはきちんと出させるということです。

閉会の辞

総括

短大FD委員長 國田 千恵子

第9回FD研修会では、まず、FD活動の一環であり、教育改善の糸口となりうる二つのアンケートについて、FD委員の松井先生と小林先生からご報告をいただきました。

一つ目の「授業改善のための学生アンケート」は、ご存知の通り、平成18年度後期に試行後、平成19年度からは年に2回の割合で実施しています。その集計結果からは、学生の勉学意欲や授業満足度は学年が進むにつれて向上するが、卒業時には低下する傾向がみられたとのことでした。

二つ目は「金沢学院短期大学の教育を一層充実させるための卒業生アンケート」です。こちらは、社会から期待される人材像を具体的に探り、教育方法改善に資することを目的とし、平成11年度から20年度卒業生を対象に実施しました。回収率や回答者の偏りなど、検討すべき課題は残るものの、一定の示唆は得られたと思います。

また、本研修会では、上記二つのアンケート集計結果を基に、三つのテーマを設定し、「本学の教育改善」に関するグループ討論を行いました。各グループからの主な提案は次の通りでした。

Aグループは、「学生の向上心の維持」をテーマに話し合いました。結果、在学生にとって身近な存在である卒業生からのアドバイスは貴重であり、勉学意欲にもつながるとの意見から、卒業生アンケートの結果を学生に伝えてはどうかとの提案がなされました。この案については、平成23年度入学の1年生に対し、「フレッシュマンセミナー」の講話の中で、集計結果の一部ではありますが発表し、実行に移すことができました。

Bグループも「学生の向上心の維持」がテーマでした。遅刻、欠席が学力や向上心に大きくかかわっているとの考えから、特に、遅刻に関する共通ルールの作成が必要との意見が出ました。

Cグループでは、「コミュニケーション能力の育成」をテーマに話し合われましたが、コミュニケーション能力の育成にあたっては、学生に対し、どの程度の能力を育てるべきなのかを見極めることが大切であり、段階をおった育成、教育システムの開発が必要なのではないかとの意見が出されました。

Dグループでは、「短大で学ぶ目的の理解」をテーマに討論が行われ、入学前、入学時、在学中の対応について具体的な提案がなされました。

グループ討論は、教職員の意見交換と情報共有の場を提供する良い機会になっていると思われます。しかしながら、提案された内容や方法が活かされていないのが現状です。FD研修会を、そしてグループ討論をより実りあるものにするためには、組織全体としての協力体制と連携が、これまで以上に必要なのではないかと感じます。

最後になりますが、教職員の皆様にご協力をいただいておりますアンケートの実施に関しましては、適宜行うことが必要だと考えています。回答に対する信憑性や信頼性については、様々なご意見があるかとは思いますが、在学生及び卒業生から得られた貴重な情報を検証し、具体的な教育改善策を検討していくことは、今後のFD活動のみならず、必要なことなのではないかと思えます。

資料 1

平成 22 年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果

平成22年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果

1. 学生アンケート実施

実施日：平成23年1月14日(金)～2月3日(木)

科目数：112科目（回答数：2680枚）

2. アンケート集計処理

短期大学全体	→	112科目	(2680枚)	専攻科も含む
ライフデザイン総合学科	→	69科目	(1249枚)	} 両学科共通は 10科目(217枚)
食物栄養学科	→	41科目	(1536枚)	
専攻科 食物栄養専攻	→	12科目	(112枚)	
1年生科目	→	57科目	(1516枚)	専攻科は含まず
2年生科目	→	43科目	(1052枚)	専攻科は含まず
基礎科目・教養科目	→	18科目	(387枚)	専攻科は無い
専門科目・教職科目	→	94科目	(2293枚)	専攻科も含む

3. 短期大学全体のアンケート集計結果

(1) 評価が良い回答

問1. 先生の声は聞こえましたか。

問4. 教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。

問8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。

(2) 評価が悪い回答

問12. あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。

問13. あなたは、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。

(3) 授業について当てはまる項目で回答数が多い項目

(％は受講学生数に対する回答した学生の割合)

7. 自分の基礎知識がなかった。(22.6%)

5. 内容が難しかった。(22.3%)

4. 量が多かった。(19.4%)

8. 自分が勉強不足だった。(16.1%)

4. 短期大学全体と両学科の比較、1・2年生科目の比較

(1) 短期大学全体、ライフデザイン総合学科、食物栄養学科の傾向はほぼ同じである。

専攻科では「自分の基礎知識がなかった」「自分が勉強不足だった」と答えた学生が多い。

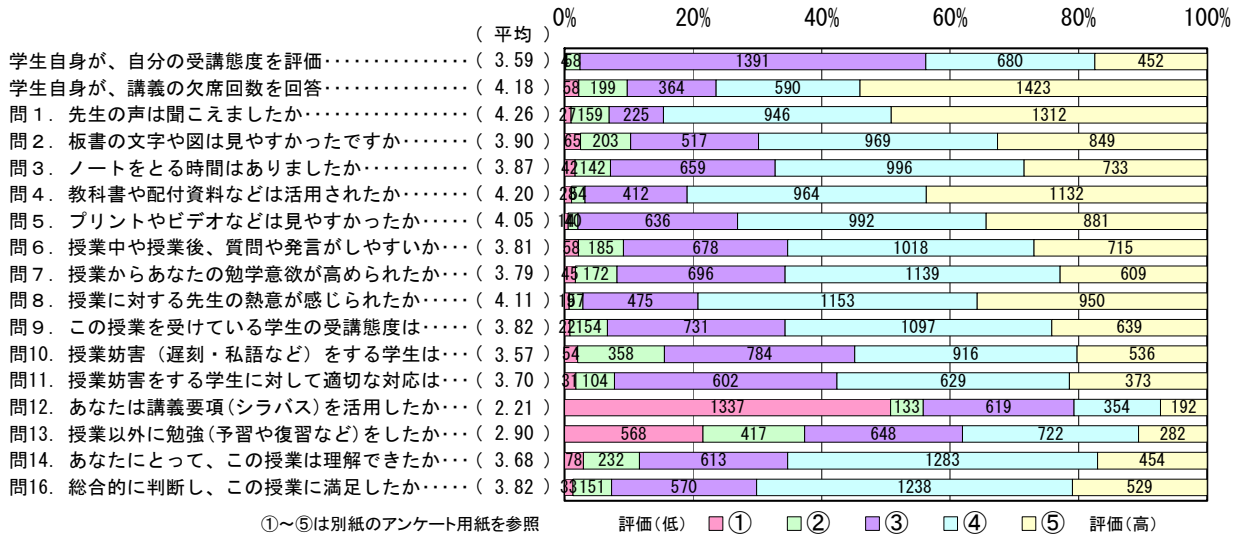
(2) 1年生科目と2年生科目の比較では、1年生の方が「量が多かった」「進み方がはやかった」「自分の基礎知識がない」「自分が勉強不足だった」と答えた学生が多い。

(3) 基礎科目・教養科目と専門科目・教職科目の比較では、専門科目・教職科目の方が「内容が難しかった」「進み方がはやかった」と答えた学生が多い。一方、基礎科目・教養科目では、「授業内容が簡単過ぎた」と答えた学生もいる。

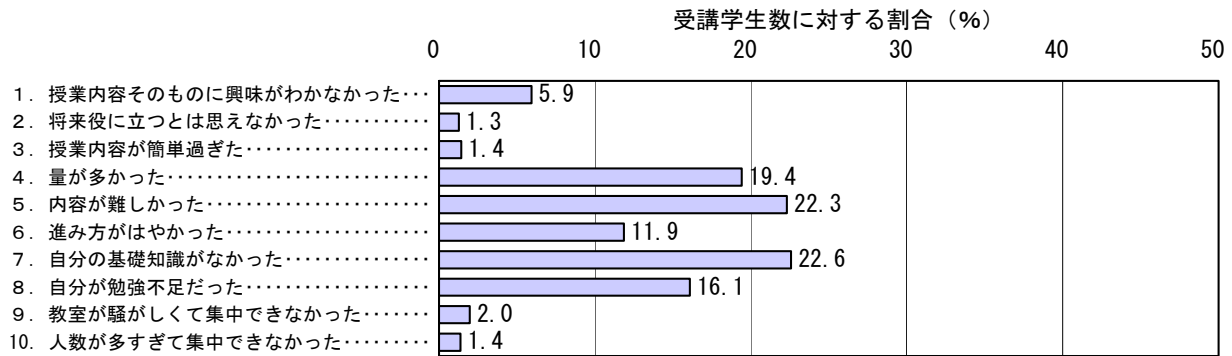
(松井良雄)

短期大学の全科目 (専攻科も含む)

アンケート集計結果 (数値は票数)

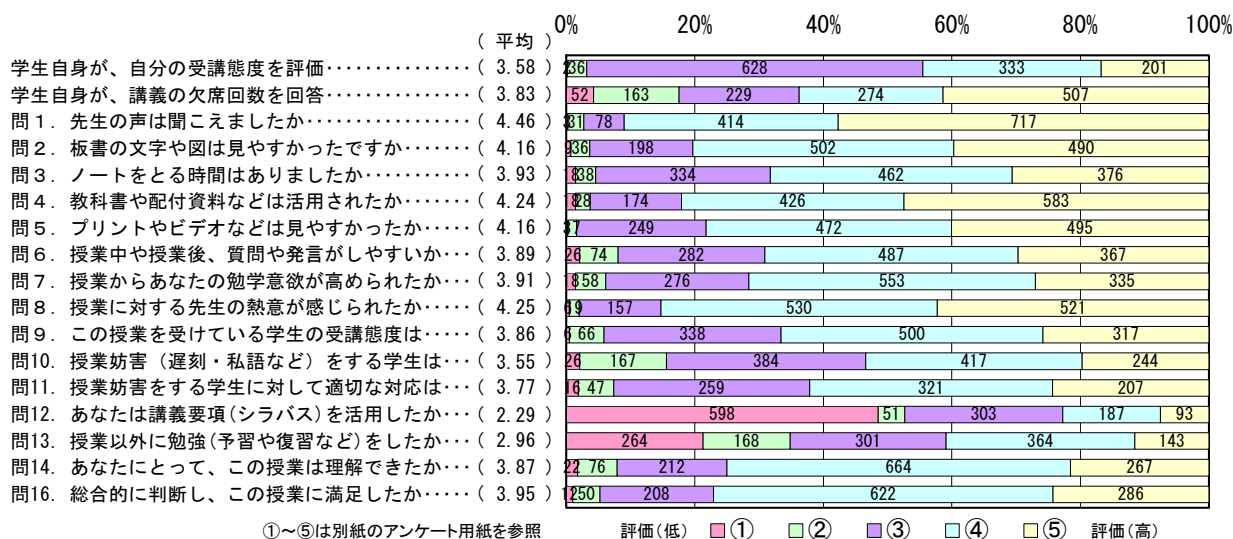


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

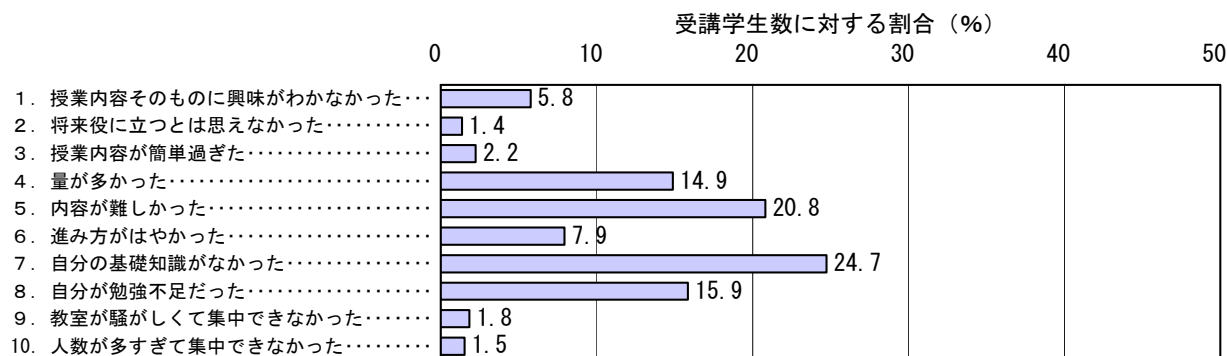


ライフデザイン総合学科

アンケート集計結果（数値は票数）

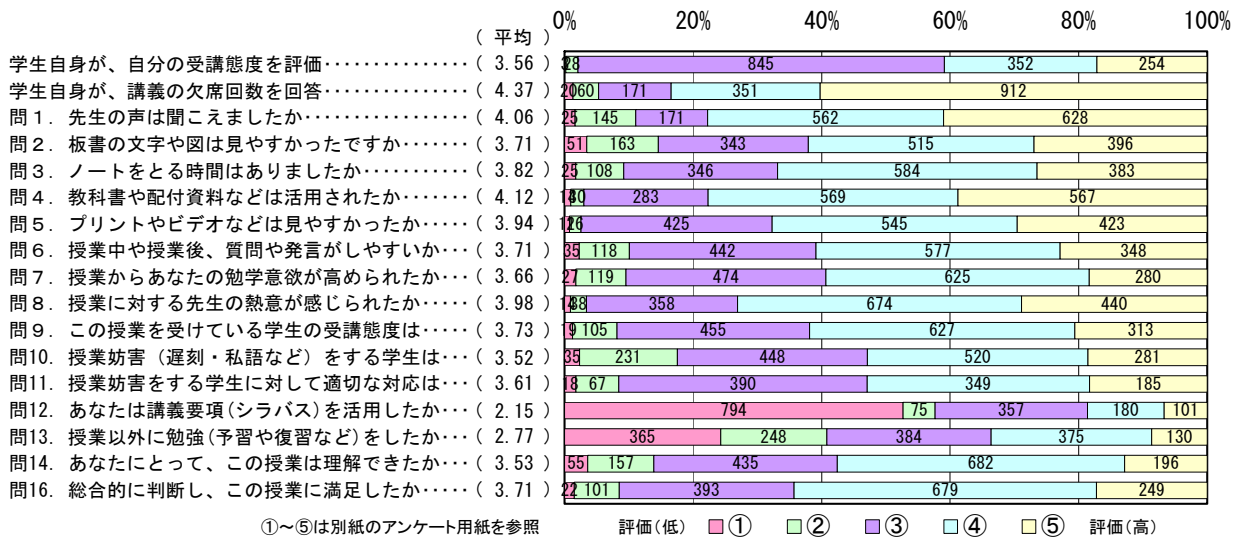


問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

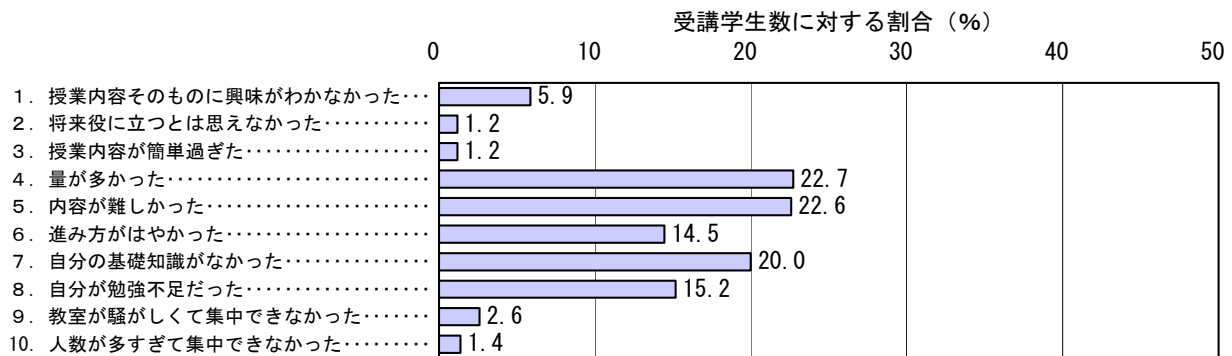


食物栄養学科
(専攻科は含まず)

アンケート集計結果 (数値は票数)

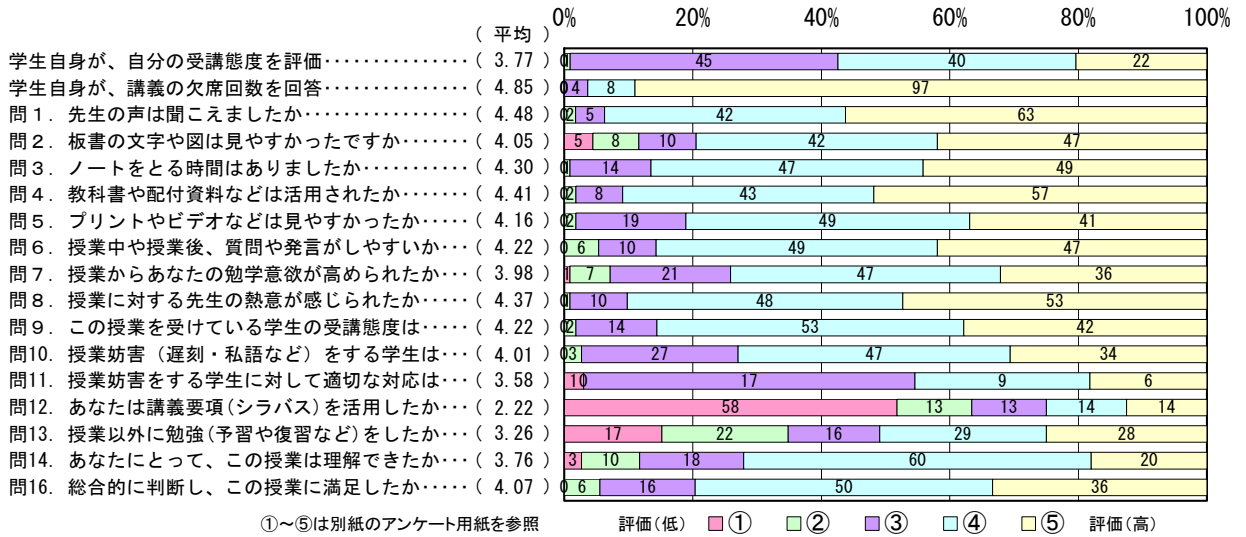


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

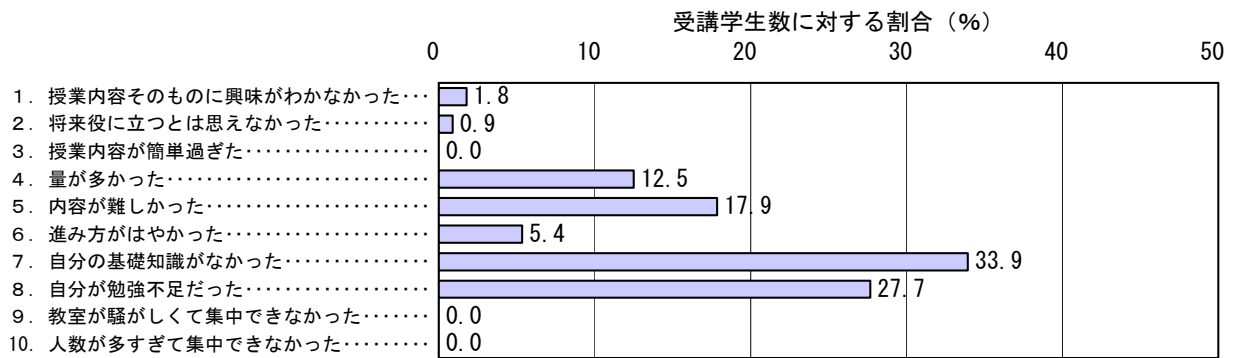


専攻科 食物栄養専攻

アンケート集計結果 (数値は票数)

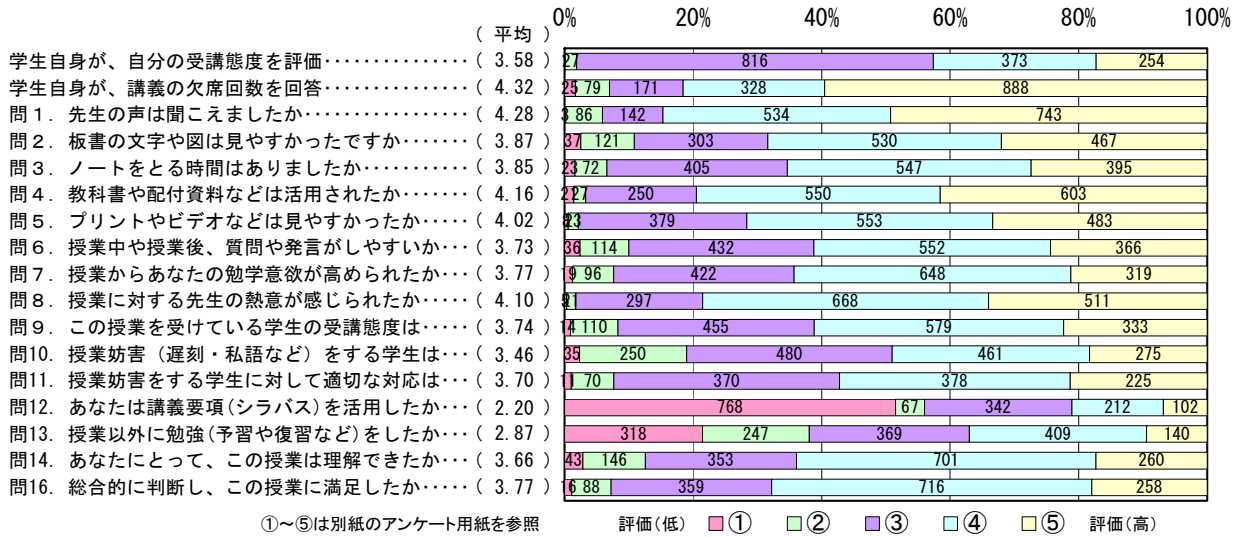


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

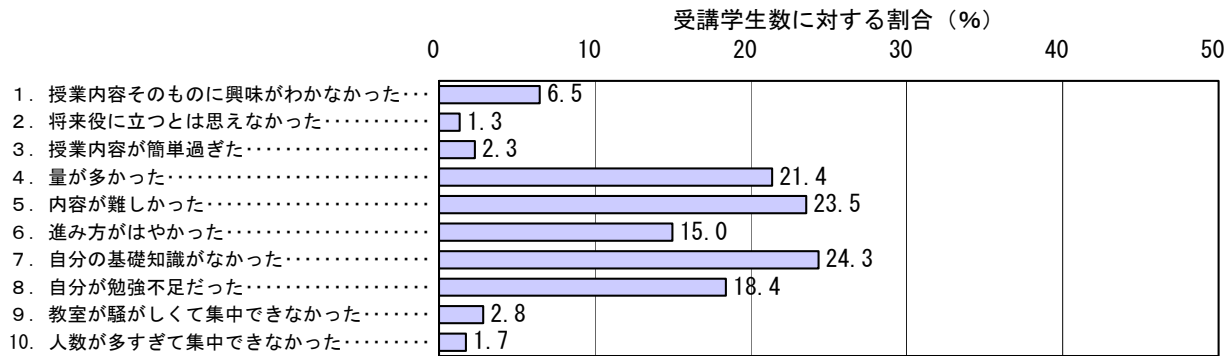


1年生科目
(専攻科は含まず)

アンケート集計結果 (数値は票数)

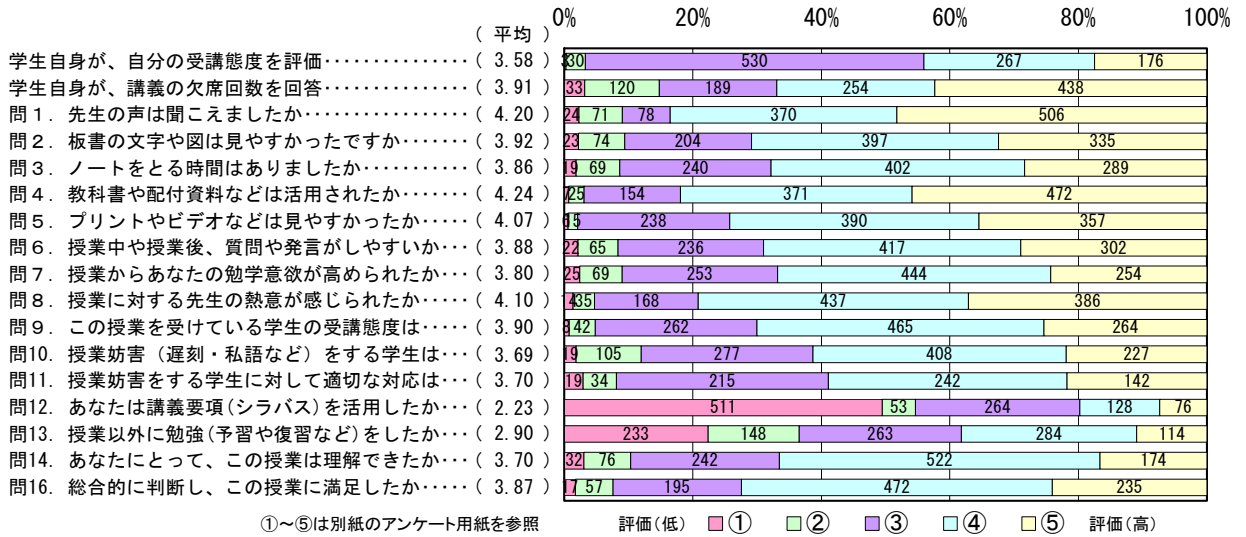


問15. この授業について、当てはまる項目(複数回答可)

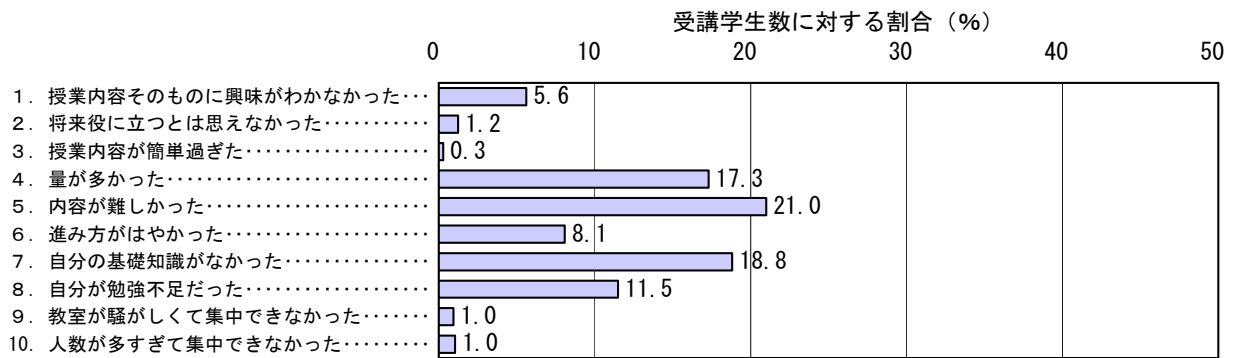


2年生科目
(専攻科は含まず)

アンケート集計結果 (数値は票数)



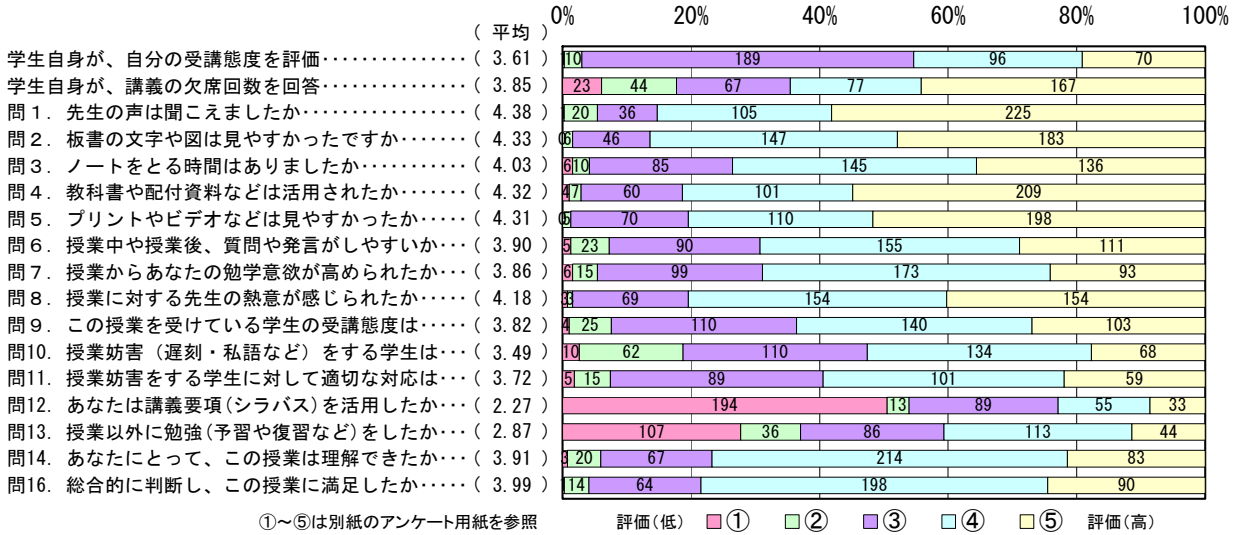
問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)



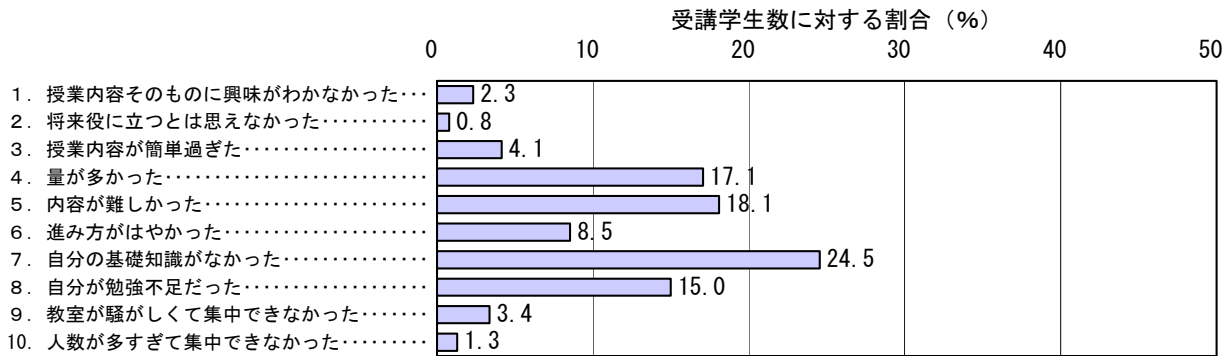
基礎科目

教養科目

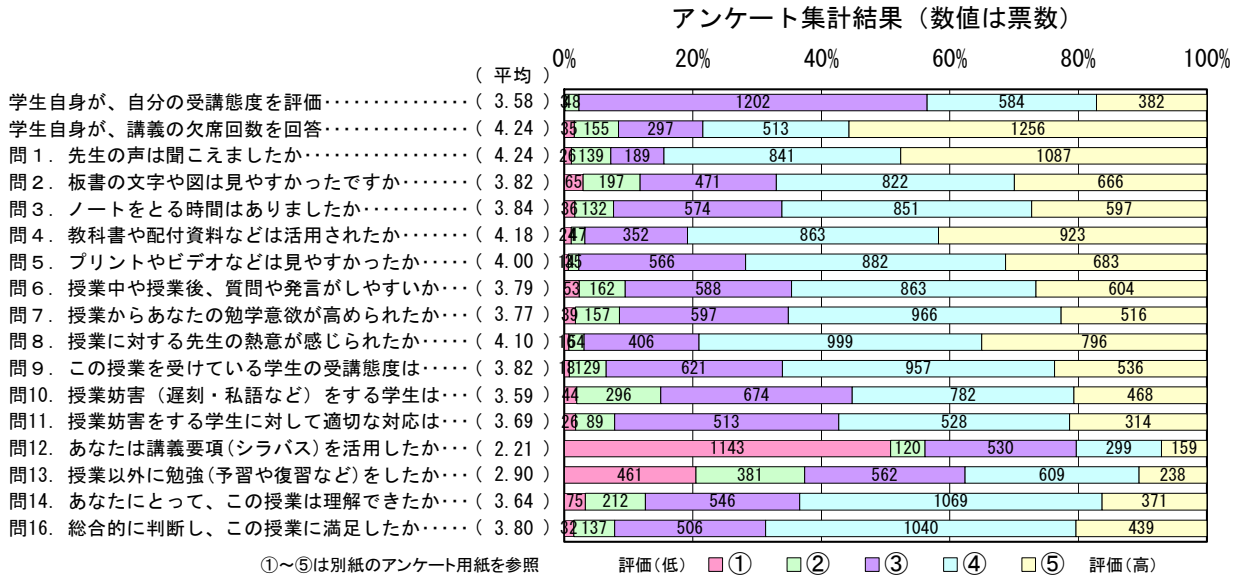
アンケート集計結果（数値は票数）



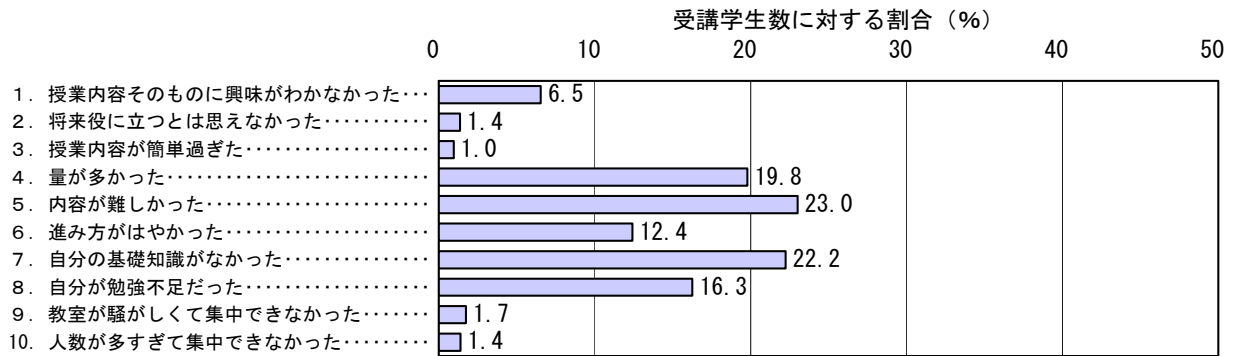
問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）



専門科目（専攻科も含む）
教職科目

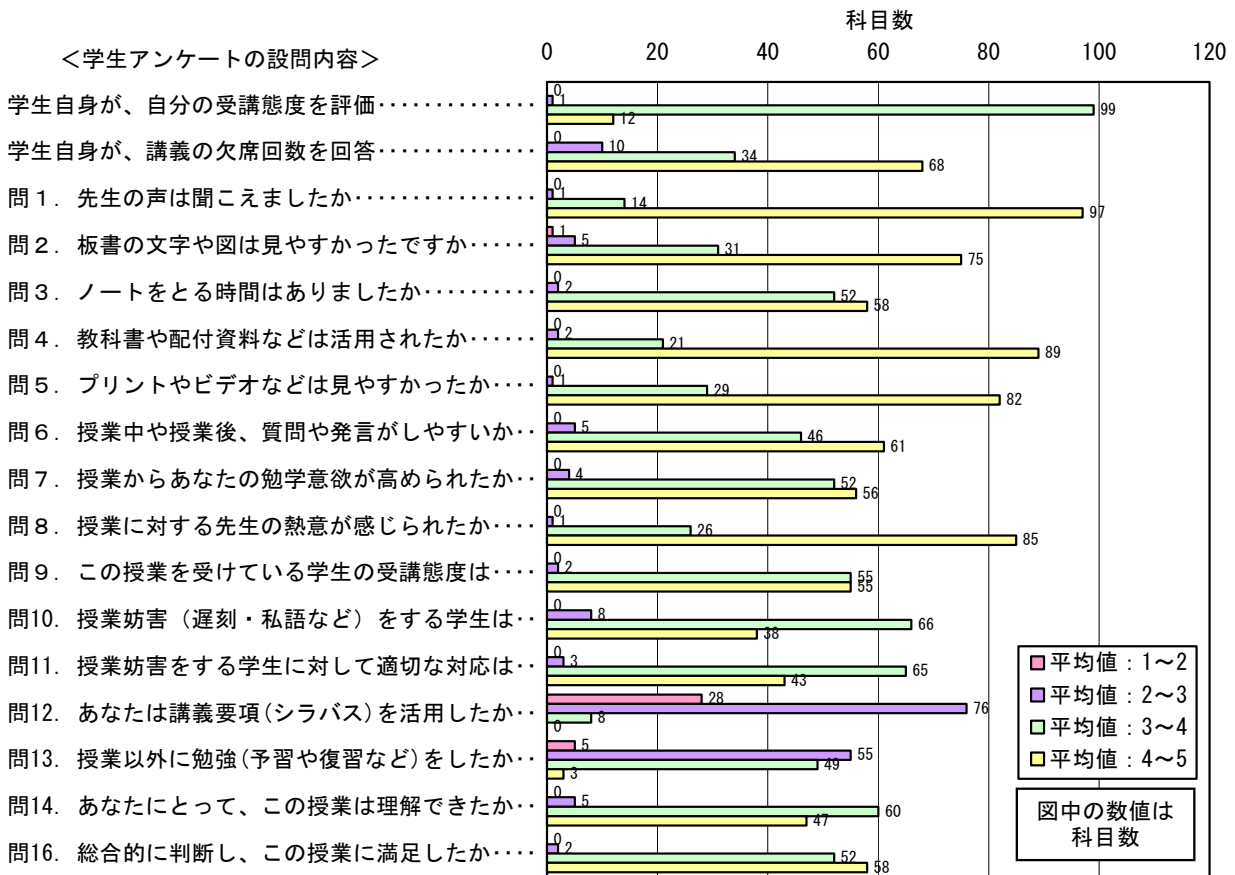


問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

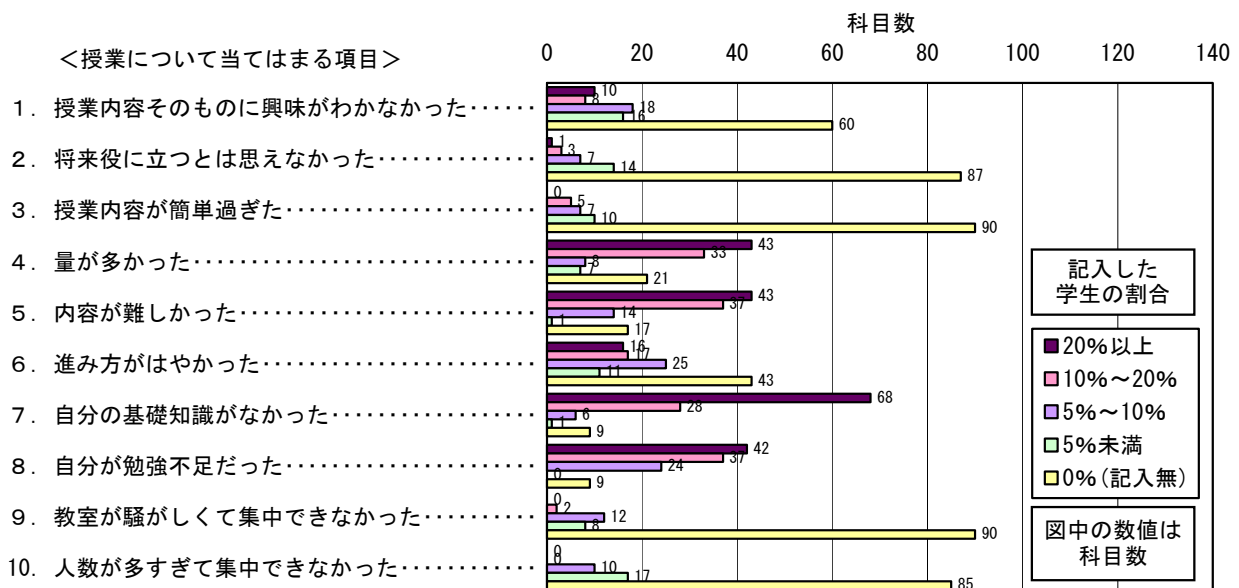


金沢学院短期大学 平成22年度後期 授業改善のための学生アンケート
 科目数の分布結果：短期大学の全科目数=112科目

「設問（問1～問16）」ごとの「平均値（1～5）」に対する科目数の分布



「授業について当てはまる項目」ごとの「記入した学生の割合」に対する科目数の分布
 参考：「記入した学生の割合」は、受講学生数に対する記入した学生の割合（%）



授業改善のための学生アンケート

マークはHB程度の鉛筆で○内を塗りつぶしてください。

良い例 ● 悪い例 ○

このアンケートは学生の皆さんが受講した授業科目を今後より一層充実させるため、実施するものです。成績評価とは全く関係ありません。率直かつ真剣にお答えください。

授業科目	教員氏名
------	------

科目番号 (たてに)									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	

I. あなたについて、お尋ねします。当てはまる箇所をマークしてください。

学 科	生活デザイン学科	ライフデザイン総合学科	食物栄養学科				
	○	○	○				
学 年	1年	受講態度	非常に悪い	やや悪い	普通	まあまあよい	非常によい
	○		①	②	③	④	⑤
	2年	欠席回数	4回以上	3回	2回	1回	0回
	○		①	②	③	④	⑤
	その他						
	○						

II. 授業について、お尋ねします。以下の各項目についてあなたはどのように思ったり、感じたりしましたか。各項目について当てはまる番号を1つ選び、マークしてください。

1	先生の声は聞こえましたか。	ほとんど聞こえなかった ①	あまり聞こえなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ聞こえた ④	よく聞こえた ⑤
2	板書の文字・図は見やすかったですか。	見にくい ①	少し見にくい ②	どちらともいえない ③	まあまあ見やすい ④	見やすい ⑤
3	ノートをとる時間はありましたか。	ほとんどない ①	あまりない ②	どちらともいえない ③	まあまああった ④	十分にあった ⑤
4	教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。	ほとんど活用されていない ①	あまり活用されていない ②	どちらともいえない ③	まあまあ活用されている ④	十分に活用されている ⑤
5	プリント・ビデオ教材・プロジェクター画面などは見やすかったですか。	見にくい ①	少し見にくい ②	どちらともいえない ③	まあまあ見やすい ④	見やすい ⑤
6	授業中や授業後、質問や発言がしやすかったですか。	思わない ①	あまり思わない ②	どちらともいえない ③	まあまあそう思う ④	そう思う ⑤
7	この授業から、あなたの勉学意欲を高められましたか。	高められなかった ①	あまり高められなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ高められた ④	高められた ⑤
8	授業に対する先生の熱意が感じられましたか。	感じられなかった ①	あまり感じられなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ感じられた ④	感じられた ⑤
9	この授業を受けている学生の受講態度はあなたから見てどうでしたか。	良くなかった ①	あまり良くなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ良かった ④	良かった ⑤
10	授業妨害(遅刻・私語・携帯操作・居眠りなど、授業以外のこと)をする学生はいましたか。	たくさんいた ①	少しいた ②	どちらともいえない ③	ほとんどいなかった ④	いなかった ⑤
11	10で①または②の場合、授業妨害をする学生に対して適切な対応はなされていきましたか。	適切な対応はされなかった ①	あまり適切に対応されなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ適切に対応されていた ④	適切に対応されていた ⑤
12	あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。	ほとんど活用しなかった ①	少し活用した ②	どちらともいえない ③	まあまあ活用した ④	大変よく活用した ⑤
13	あなたは、授業中以外の時間(休憩時間や帰宅後)に、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。	ほとんど勉強しなかった ①	あまり勉強しなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ勉強した ④	勉強した ⑤
14	あなたにとって、この授業は理解できましたか。	ほとんど理解できなかった ①	少ししか理解できなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ理解できた ④	大変よく理解できた ⑤
15	この授業について、次の項目のうち当てはまる番号をマークして下さい。(複数回答可)	① 授業内容そのものに興味がわかなかった。 ② 将来役に立つとは思えなかったため、興味がわかなかった。 ③ 授業内容が簡単過ぎた。 ④ 量が多かった。 ⑤ 内容が難しかった。 ⑥ 進み方がはやかった。 ⑦ 自分の基礎知識がなかった。 ⑧ 自分が勉強不足だった。 ⑨ 教室が騒がしくて集中できなかった。 ⑩ 人数が多すぎて集中できなかった。				
16	総合的に判断してあなたはこの授業に満足していますか。	かなり不満足である ①	少し不満足である ②	どちらともいえない ③	まあまあ満足している ④	大変満足している ⑤
17		①	②	③	④	⑤
18		①	②	③	④	⑤
19		①	②	③	④	⑤
20		①	②	③	④	⑤

★この授業について意見があれば、裏面Iに、自由に記入してください。

金沢学院短期大学

資料 2

平成 20－22 年度私立大学等経常費補助金（特別補助）「教育・学習方法等改善支援」

金沢学院短期大学の教育を 一層充実させるための卒業生アンケート 自由記述一覧と質問紙

I 自由記述項目の原文

※1. 教職員の実名が記載されている記述は全て除いた。

※2. 一次資料としての生データを掲載するため、表記揺れや誤字に関しても原文のままとした。

13. 工作中や進学先で、あなた自身の能力に関して力不足を感じたり、悔しい思いをしたという経験がありましたら教えてください。

・パソコンが苦手で、在学中にもパソコンの授業があったが、もっとしっかり学んでおけばよかった。職場では給食だよりやレシピなど、ほとんどのものがパソコンで作るため。

・コミュニケーションや人の話し方、人間関係で悔しい思いをしたり、最近じゃ町に歩いていると鼻を触る行為、髪を触る人、仕事でもよく見て気になる。分からないことがあればその人は、受け答えする方、しない方もいる。あいさつもしない人もいる。

・卒業後、デザインに携わる仕事について自分の知識や技術の無さに愕然としました。その後自分でフォトショップやイラストレーターの本を読みこんで勉強しましたが、もっと学生の時にまなんでいたらなと思いました。

・特になし

・卒業と同時に資格ももらえたけど、みんながみんな頭に入っている資格じゃないから、資格とは言えないと思う。その資格を書くだけで要求されるレベルもちがってくるから

・お店に外国人のお客がよく来るので、もっと英語を勉強しておけば良かったと思いました。

・病院で栄養士の仕事をした時に、管理栄養じゃないと何も出来ないことをまのあたりにした。栄養指導も献立作成も書類の一つ一つにおいても自分は栄養士だったのでできなかった。

・私が栄養士として保育園に入りました。金沢市なので研修等に行っても、北陸学院卒の栄養士が多く、少しさみしく思いました。金沢学院は保育園就職が少ないのでは？

・常に力不足を感じたり、まだまだだと思えばかりですが、勉強していく向上心を忘れずに日々努力していくしかないと思っています。

・職場では仕事も大事だが、人間関係が一番大事。もっと人と接してコミュニケーション力をつけておけば良かったと思うし、もっと資格をとっていれば良かった。

・自分の勉強不足だったのかもしれないが、栄養士の職場は、委託業者と自営給食企業の違いがよくわからず、卒業後は中途採用の形で委託業者に勤めましたが、自己都合でわずか2カ月でやめてしまい、その後、営業事務職でパート身分で7年10カ月勤め、ここ最近やっと正社員の道で栄養士で頑張らせてもらっています。転職できましたが、他人より約8年出遅れました。調理職員はベテランの方々に、「しょっぱくないとおかずにならないわ！」や、「この献立は煮るより、揚げた方がいいわ！」だったり、塩分を気にしていたり、エネルギーを気にしていたり、私の計画が聞く耳をもってくれず、力不足を感じます。

・英文科に入ったのに、英検準1級や通訳検定などあまりチャレンジしなかった。留学(ハワイ)をすれば良かったと思った。(英会話力をつけるため)

・もっと資格を取ってあれば良かったと思います。

・建設会社でCAD部署にいたときに、もともと数学が苦手だったために、簡単なことが分からず、恥ずかしい思いをした。能力不足と感じて、3年で辞めてしまった。

・栄養士で働いていたときは、あまり感じなかったが、現在営業という仕事をしている上では、マナーであったり、モラル、言葉づかい、目上の人に対する礼儀などが、いまいち分からなかったりはし

ました。

- ・大学(学院大学)に進学したためか、あまり力不足を感じる面は無かった。欲を言えば、基礎学力(計算など)がもっと高ければ、仕事の効率が良いと感じることはある。

- ・CAD や、word excel、power point、語学をもっと幅広くハイレベルで学びたかったと思います。

- ・パソコンの操作(かな打ちで習ったため、英文打ちが苦手なこと)会社の人のお葬式に出た時、お香典の出し方やあいさつ・お礼参りのやり方が分からなかった。

- ・アクセスをもっと学べていたらよかった。職場にでると、アクセスを使ったシステム管理を利用し、業務に就くことが大いにある。

- ・事務所で栄養士が1人(委託側)なので、介護ヘルパー、看護師より、栄養について色々と相談を受けましたが、即答できず、栄養士の資格を持っていながら専門の知識が不足していると感じました。学生時代の参考書を職場において勉強しています。

- ・1社目の時、人とうまくコミュニケーションをとることができなかつた。上下関係や人と話す、人前で話すトレーニングをもっと取り入れてほしかった。

- ・全く別の分野に仕事についたため、専門的なことは仕事についてから学んだ。本当にやりたいこと、少しでも興味が出たことについては、少し悩んだとしても、そこについて勉強すべきと感じた。今の社会は初心者でもOK・やる気さえあればという会社なので、自分にあっているのかなと思ったりもする。日々、勉強はしていかなければいけないと厳しさを痛感しているこの頃である。

- ・印刷物を作る上で、デザインやカラーマネジメント能力が必要だが、知識がないので、提案する時あまり自信がもてない。

- ・私個人にはないが、卒業生(同期)と話すとき大卒と短大卒の職場での扱いが差別に値する程であると聞きます。”やっぱり大学行っとけばよかったかなあ〜”ってつぶやきも。

- ・アレルギー食の知識不足

- ・言語能力が足りない・サービス業をしていて臨機応変に対応できてないと思ったことがある。何回もしている作業を慣れているのに失敗したこと。

- ・データを取り引き先からもらい校了させ、印刷会社へもち込む時に、取り引き先のデータがうまく自分のパソコンでひらけなかった。ここで一度問い合わせしてみるべきだったのに、そのまま自分でできる範囲のことをやり、上司にOKもらい入稿したところ、仕上がりがやはり元データとほんの少し違い、取り引き先に上司がおこられてしまった。お金をしはらわないことでなんとかゆるしてもらいましたが……。確認すること、自分の勉強不足から起こってしまったこと、すごく悔しい思いでした。

- ・栄養士としての現場経験がないため、学生に対して現場の話などができないのが悔しいです。現実的な話をあげると、学生も興味を示してくれるので、意欲がわくと思います。

- ・仕事にパソコンのスキルが足りなくて、個人でパソコン教室へ通いました。学生中にパソコンの実技の授業をもう少し増やしてほしいと思いました。せめてブラインドタッチが完全にできるように、授業で試験などして欲しかったです。(個人の甘えかもしれませんが……)

- ・コミュニケーション能力と指導能力不足で苦労した。

- ・PCをうまく使えなかったとき。専門知識を問われて答えられなかったとき。

- ・学生生活からすぐに社会人としての意識・行動が求められる中で、なかなかなじめずしばらく不安なきもちになりましたが、なんとか、6年10カ月、1つの会社でがんばる事ができました。意識・行動する力を学生のうちから身につけてほしいと思います。

- ・秘書の時に教えてもらったお茶の出し方をもっとしんけんし、おぼえればよかった。時事のことも、

もう少しべんきょうすればよかった。中学までの基礎学力の足りなさを身にしみて、悲しくなった。

- ・上手く言葉にすることができず、お客様に説明するのが大変だった。もう少し、お客様のお話を聞いて、色々なこと学んで、人を頼らず接客できたらと思った。

- ・仕事の内容より、実践的な調理や切り込みなどが全く追いつかず、力不足だと思った。

- ・平成19年11月29日第16回金沢市女性意見発表会に賞状をいただきました。文章を書き味噌蔵校下婦人会の代表として、女性センター会場にて発表いたしました。どうにか責任を果たすことが出来ました。今はフラダンスの会長として、医療センターや春日町ケアセンター、粟ヶ崎養護学校の依頼を受け行かせていただき、平常は城東栄久シール自動車学校のベビーシッターに行っております。

- ・もっと word、excel、power point を勉強しておけばよかった。

14.もし現在、勉強し直す機会があるとしたら、第一番目に何を勉強しようと思いますか？

- ・パソコン、アレルギー(職場で様々な食物アレルギーの子がいるので)

- ・医療関係の事務資格を勉強しようと思います。

- ・カラーコーディネーター、色彩心理学

- ・保育、薬剤士、ペット訓練士、web デザイナー、医療事務

- ・語学(現在、自己流で英語、ロシア語、フランス語を勉強中ですが、勉強の仕方が分からずにいます。)

- ・イラストレーター、フォトショップなど

- ・英会話

- ・臨床栄養学

- ・私はバレーをするために入りましたが、栄養士の資格がとれて、今は保育園で働いて10年目です。とても感謝していますが、勉強し直すなら、全く違う職に就きたいので、特にきまってません。

- ・現在美容師資格取得に向けて勉強中ですが、その他には存学中に授業を受けた衣服についての知識はもっと習得しておけばよかったと思います。

- ・医療関係の勉強

- ・栄養士の勉強ももちろんのこと、料理の色どりよく献立作成したり、パソコン操作にも力を入れれば良かったと思います。料理は見た目も大事、品数でのボリューム感や、盛りつけのキレイさを習得していると、今現在は、調理師の方がベテランの人となると、知ってなかったり、行動できなかったりと、認めてもらえないのが現状です。また、パソコンのエクセルで表計算や、バックアップのやり方とか、ある程度詳しく知ってた方がいいです。表計算については、食品の在庫管理の作成ができたり、何か連絡事項をパソコンで迅速に印刷できると楽です。

- ・私はもう一度英文科に入って、英会話できるくらいの力を身につけたいと思う。そして、国家資格を1つで良いのでとりたいと思う。金融の方に進んだので、今は証券、生命保険、損保などの資格だが

- ・word、excel、CAD などパソコン関係

- ・近代文学(司書になったときに、切実に思った。)、英語

- ・社会人としてのマナー、言葉づかい、礼儀作法、目上の人に対しての接し方

- ・短大で学んだ教科

- ・酒造り(地元の産業に貢献したい)
- ・プログラミング言語(excel のマクロなどにも役立つため)
- ・パソコン全般、礼儀作法
- ・医療に関する勉強。看護師や介護、事務など。
- ・中国語、英語の話せる力をつけたい。
- ・今、栄養士として現場ではなく献立・発注～調理師・パートを指導する立場にいますので、栄養の事はもちろんですが、経営管理についてももっと勉強しなければと思います。会社の研修で、責任者の講習などにも参加していますが、まだまだ理解できないところが多いです。
- ・PC 操作
- ・福祉に関して(疾患、精神病、等)、介護について
- ・語学
- ・管理の試験を受けていても、特定の課目が分からない。
- ・デザイン、カラーマネジメント
- ・文学、金沢の歴史など
- ・ビジネス英語、ライティング、e-mail 海外へのビジネスレター
- ・福祉系の勉強
- ・色彩の勉強。せっかく色彩専門の学部に入ったので色彩の勉強をするようにしたいです。
- ・給食経営管理論・栄養指導論などの実習学科も含む科目。
- ・パソコンの処理能力をあげるためにワードやエクセルはもちろん、アクセスやパワポなど勉強したい。
- ・コミュニケーション能力、指導能力を鍛える勉強。
- ・専門科目(栄養士として知っておかなければならない知識)
- ・学ぼうという意欲(管理栄養士)、人との接し方(礼儀・話し方・コミュニケーションのとり方)
- ・敬語の使い方、英語、エクセル、ワード、ホームページ作成、フォトショップ、イラレ、漢字、歴史
- ・特になし。
- ・英語のマスター。しかし私は現在 78 才になりました。私は 74 才卒業です所以無理ですが、若者は必要です。彦三の高砂大学校のフラダンスクラブを発足して、昨年 10 周年を迎え今後も会長を務めなければなりません。生かされています。
- ・パソコン、政治経済

15. 卒業生の視点から、金沢学院短期大学に対する率直なご意見を教えてください。

- ・社会人になって、短大で学んだことが少しは生かしているのかなあと感じます。どこに就職する事にもよりますが、社会人になって学ぶことのほうが多いと感じます。勉強だけではなく、先生方や友達との人間関係もとても大切だと思うので、学生の間は色々なことを経験したらいいと思います！！
- ・職場の人と友人関係になることは、できないと思いますが、学校にいる以上仲間をつくり、これから社会にでるのでいっぱい会話をできるようにしてください。資格取得の勉強を頑張ってください。不景気なので就職先見つけられるように願ってます。
- ・正直、広く浅く勉強するより、もっと1つの事を深く学んだ方がその後身につくのかな、と思います。

自分がそうだったので・・・

- ・短大はとにかくゆるいと思う。大学と同じくらいレポートとか出すべき。
- ・明るいキャンパスで学びやすかったです。
- ・2年間でしたが有意義な時間がすごえました。
- ・管理栄養士の資格を取得できる学校になったら良いと思う。社会人になって改めて、働きながら勉強することが大変だと感じました。
- ・やっぱり資格がとれたことが一番良かったです。でも今はPCの時代ということもあり、もっとPCを学べたら良かったです。私はスポーツで入りましたが、スポーツで選ぶ人もいます。そんな人達のためにも、金沢学院はここが良い！！と押す所があればいいと思います。金沢学院のご発展を願っています。
- ・様々な新しい試みに挑戦している大学というイメージがあるので、素晴らしいと思います。
- ・言語コミュニケーションという学科は必要だったのかと思う。卒業して後悔しているのは、どうせ通うなら、料理が学べる栄養士の方の学科へ通えばよかったと思っています。それに、私がいた学科は女の学生が就職が嫌で、派手すぎる服装、遅刻、居眠りをしている、遊びに来ているのがいた生徒が嫌でした。
- ・栄養士で私は現在、有料老人ホームに勤めさせて頂いているのですが、現場にも出ていて、献立作成や発注もしている立場からですと、調理実習のときは、保存食の実践もできたのかなと思います。野菜を切ったりしたら、その30gを保存食にすることだったり、加熱調理の中心温度をはかる実践だったり、塩分濃度をはかったり等、私のように現場へ出ることはないかもしれないけど、知識どまりで終わるより、調理実習のときにやればなと思いました。パソコン操作はエクセルの表計算を詳しいと、食品の在庫管理の表など、自分の思ったとおりにできていいかなと思います。栄養士だと、食材の発注もすることで、請求書の金額をチェックしたりで、私は事務職もしましたが、簿記は勉強になりました。そういう会計だったり知っていると、自分も伸びると思いました。社会に出て言われるのが、「相手のことを考えて仕事をする」で、自分がこうするが、相手はどう思うか？とか、相手のある仕事ができる人材言う聖があると素晴らしいと思います。
- ・国家資格が1つでもよいからとれるような学科を目指してほしい。どんな分野でもよいので。あと、英文科(もうなくなったかもしれないが)留学する地域を増やしてほしい。私はアジア(中国・韓国・インドネシア)へ旅行行ったことがあるが、そこでやはり英会話力が求められると思った。また、留学なんかは、学生の間でしか経験できないし、世界をみてきたことは日本に帰って、今後の就職活動には大いに役立つと思います。私の卒業した10年前は、まだ就職がありました。しかし今は不況も続き、なかなか難しいです。就職活動でも、自己分析・企業研究・在学中に何に励んだかということが大切です。そのような人間形成の授業もうけると良いと思います。
- ・今の生徒さんの学びに対する考えや向上心はわかりませんが、私の在学中は“遊んでいる子”がたくさんいて、私はもっとせっかく入学したのだから、真剣に学びたかった。やっぱり一人だけで“真剣”にしていると、していても、“学び”って面白くなかったです。この前の文化祭(清鐘祭)におじゃมาしたとき、私の頃よりにぎやかになって良かったと思いました。楽しかったです。
- ・すごく楽しかった。今まで生きてきた中で、1番戻りたいと思う時期。先生も、すごい人ばかりだし、校舎もそこそこキレイ。学ぶ環境としては、めぐまれていたと思うが、自分の向上心や勉強しようという気が、おとっていたと思う。金沢学院短期大学に入学して良かったと思ってます。専攻科に進めば良かったと思ってます。とりあえず楽しかったです！！

- ・食物栄養専攻科に入って、料理の知識がたくさん身につけられたので良かったと思います。調理実習が一番楽しめました。
- ・会社員になると勉強する時間がとても短くなります。職場によるかもしれませんが、学生のうちに「暗記系」で合格できる資格があれば取得するようにしてください。
- ・パソコンのアプリケーションをある程度以上使えるような授業を増やしてほしい。 (windows,MAC どちらも)デザイン、設計等の資格勉強も増やしてほしいです。
- ・在学中に比べると学校周辺(末町・永安町)がだいぶ色褪せている。当時、開店していた店も閉まってしまって寂しい。学園祭などに行きたいけれど、繊細な日にちが分からない。(県外の人には特に・・・)学校の今の様子、学校周辺の景色をはがきなどで知りたい。このアンケートの学校の景色を見て、当時の楽しかった思い出がよみがえりました。
- ・特になし。
- ・もっとプロフェッショナルな人材育成をしたらよいと思う。難しいとは思いますが、(学校の利益とクオリティのバランスをとること)もっと大学のレベルアップ(率直に頭の良い大学と言われるような学校に)できたらよいと思う。
- ・今現在、栄養士として働いているのは、金沢学院短大を卒業したからと言えらると思います。学生時代の友人 4 人と入社し、辞めたいと言いつつもまだ皆で頑張っています。卒業してから何度か遊びに行きましたが、先生や助手さんと話せて嬉しかったです。校外実習は、高校で調理科だったので 2 回目ですが、大学の時は実習と言っても課題や発表があり、校内とは違った環境だったので、良い体験だったと思います。学生の時は、仕事をする実感がまだないので責任も感じませんでした。今思えばもっと勉強しておけば・・・と少し思いました。意見とは少し離れてしまいましたが、金沢学院短大を卒業して良かったと思います。
- ・楽しかったけど、学ぶという点では専門性は高められたかもしれないが、就職の面接や文章の書き方、コミュニケーション能力を高める時間をもっとあれば良いと思います。(自己紹介等で初めての人と話す練習など)
- ・1 人 1 人に対する先生からの言葉がもう少し思いやりがあれば、本音も言えたりしたかなと思いました。自分の選んだ短大なので、文句は言えませんが。
- ・習得しなければならぬ課目の必要性が分からないことがあり、何に使えるのか不明だった。授業中私語をしたり、やる気のない学生が多かったように感じたので、推薦入試で選ぶ際の基準を上げた方がいいと思う。自主的ではなく、強要されて勉強や学園祭などのイベントをやっていたようなもの。興味のある分野でも、自分の本当にやりたいことができている感じがする。こちらに選択する自由をもう少し与えてほしいし、入学する前にそういった義務?でなければならぬものの情報を公開してくれていたら余計な期待をしなくて済んだと思う。見学で見たときの印象と入学後の印象が非常に異なっていて、実際に入ってみたらスタッフの対応も不愉快で驚いたことがある。居心地が悪いと友だちといっても楽しくなくて、卒業して未だいい学校だったとは言えずにいる。雰囲気を変えることは人の意識にも作用するかもしれないので、外面だけではなく、中身も充実させてほしい。
- ・食物の教員がすくない。担当している教科の区別がつかない。教えていることが全て一緒な気がした。あと放置されることが多い。(授業中)授業内容が意味不明。特にパソコンの授業・・・。専攻科に入っても授業の内容が本科の時と一緒だった。
- ・学校が遠すぎ・・・。学生に戻りたい。仕事辞めたい。

- ・これからも郷土を愛し、未来に向けて活躍できる優秀な人材を育てて下さい。
- ・星稜短大、金城短大と比較すると学院短大の「color」がないような気がします。2年間の vision と言うか。見えないのが残念です。学院大のように、「体大」っぽく変身するとか。2年間で取得できるアスリート向けの資格の充実を。
- ・福祉系の学科があってもよいと思う。
- ・資格を集中してとれる授業があったら嬉しいです。自分でアイデアを考えて作品を提出するのが楽しかった。教室にこもってばかりではなく、外に出て社会見学できたのがいい経験になったと思う。正直言うと、授業時間が1時間30分は長かったけど、今思うと楽しかった。
- ・デザイン系の学科の名前がころころ変わりすぎ。高校生が学校を選ぶ時「こんな学校あったっけ？」になる。「先パイが行った『〇〇科』よかったから、ここに行きたい」とかになればもっと人が入ってくれるのにな・・・と思う。(食物はその点 OK ですね)デザイン系については、視点が定まってない感じ。早く視点を定め基礎をきついでください。同じ名の学科で10年続けばしっかりしそう。学科の内容もしっかりと決めるとよいでしょう。毎年これは絶対学ぶものと今年の学生にはこれを・・・などね。あと、地域みっちりではないですけど、石川県民は「金沢学院」と言えばわかってもらえますが、福井・富山の人にはまだまだ知られていません。県外での地域活動も必要だと思います。
- ・栄養士にとって、一番重要ともいえる授業が不安です。(職場経験がない。)授業の目的、何のためにこのようなことをするのか、良く割らずにやっていました。今の学生を見ていてもそのように思います。
- ・地元を離れてしまったので何とも言えませんが、以前のように地域に密着した、地元愛が強い学生が増えていると嬉しいです。
- ・プレゼンテーションしたりする時間がもっとあったら良かったと思う。
- ・調理や実験が多かったので、仲間と協力して活動する協調性はとても身についたと思います。
- ・卒業生が、勉強したいと思ったら、利用できたらいいかなと思う。また、勉強会や講義など参加してみたい。
- ・私は、短大でおしえてもらった事がとても、働きだしてから役に立ちました！今思えば、あの時「これは別にしたくな〜い」と思って、しぶしぶした事がなぜか社会に出て役に立ちました。そして、今エクセルが使えるとまわりから一目おかれることをかんじています、あと敬語は、本当に役に立ちました。今の学生さんには、たくさん勉強したら必ず自分にかえってくるとお伝えしたいです。あと、授業以外に先生と話したことは意外と今の自分の心の支えになっています。これからもがんばります。
- ・文法、調理
- ・何を話しているのかわからない、聞こえにくいといった外部からの先生の授業はやりずらかった。
- ・現代は英語の教育グローバルの対応が必要だと思います。

本学在籍中に取得した資格・免許を全て教えてください。正式名称が不明な資格は、略称でも構いません。

本学卒業後に取得した資格・免許を全て教えてください。正式名称が不明な資格は、略称でも構いません。

現在取得のため勉強中の資格・免許がありましたら教えてください。正式名称が不明な資格は、略称でも構いません。

II. 現在のあなたの職場(もしくは在籍校・生活環境など)で要求される、資質・能力について質問します。次の各項目の資質・能力が「職場でどのくらい要求」されており、それらを「在学中にどのくらい習得」することができましたか。最もふさわしい選択肢をそれぞれひとつ選び、マークしてください。

1. 物事を創造する能力 (アイデアを出すことが期待されたり、企画を立案するなど、常に新しい物事を発見し、自ら作り出す能力)

職場からの要求

- | | | | | |
|----------|-----------------|---------------|-----------------|---------|
| 要求されていない | あまり
要求されていない | どちらとも
いけない | まあまあ
要求されている | 要求されている |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

在学中の習得

- | | | | | |
|----------|-----------------|---------------|---------------|-------|
| 習得できなかった | あまり
習得できなかった | どちらとも
いけない | まあまあ
習得できた | 習得できた |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

2. ふるさとへの愛着

職場からの要求

- | | | | | | |
|----------|-----------------|---------------|-----------------|---------|---|
| 要求されていない | あまり
要求されていない | どちらとも
いけない | まあまあ
要求されている | 要求されている | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

在学中の習得

- | | | | | |
|----------|-----------------|---------------|---------------|-------|
| 習得できなかった | あまり
習得できなかった | どちらとも
いけない | まあまあ
習得できた | 習得できた |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

3. 地域社会に貢献する能力

職場からの要求

- | | | | | |
|----------|-----------------|---------------|-----------------|---------|
| 要求されていない | あまり
要求されていない | どちらとも
いけない | まあまあ
要求されている | 要求されている |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

在学中の習得

習得できなかった ①	あまり 習得できなかった ②	どちらとも いけない ③	まあまあ 習得できた ④	習得できた ⑤
---------------	----------------------	--------------------	--------------------	------------

4. 良識と礼節(マナーや作法を含む)

職場からの要求

要求されていない ①	あまり 要求されていない ②	どちらとも いけない ③	まあまあ 要求されている ④	要求されている ⑤
---------------	----------------------	--------------------	----------------------	--------------

在学中の習得

習得できなかった ①	あまり 習得できなかった ②	どちらとも いけない ③	まあまあ 習得できた ④	習得できた ⑤
---------------	----------------------	--------------------	--------------------	------------

5. 当該専門分野の実践に必要な能力(職務・学業・生活上必要とされる専門的な知識や技術)

職場からの要求

要求されていない ①	あまり 要求されていない ②	どちらとも いけない ③	まあまあ 要求されている ④	要求されている ⑤
---------------	----------------------	--------------------	----------------------	--------------

在学中の習得

習得できなかった ①	あまり 習得できなかった ②	どちらとも いけない ③	まあまあ 習得できた ④	習得できた ⑤
---------------	----------------------	--------------------	--------------------	------------

6. 当該専門分野の基礎知識を幅広く修め、それを応用する能力(職務・学業・生活上必要とされる専門知識の応用力)

職場からの要求

要求されていない ①	あまり 要求されていない ②	どちらとも いけない ③	まあまあ 要求されている ④	要求されている ⑤
---------------	----------------------	--------------------	----------------------	--------------

在学中の習得

習得できなかった ① あまり 習得できなかった ② どちらも いえない ③ まあまあ 習得できた ④ 習得できた ⑤

7.提案・報告などを効率的に記述する能力(事務管理能力・文書表現能力)

職場からの要求

要求されていない ① あまり 要求されていない ② どちらも いえない ③ まあまあ 要求されている ④ 要求されている ⑤

在学中の習得

習得できなかった ① あまり 習得できなかった ② どちらも いえない ③ まあまあ 習得できた ④ 習得できた ⑤

8.提案・報告などを効率的に説明する能力(プレゼンテーション能力)

職場からの要求

要求されていない ① あまり 要求されていない ② どちらも いえない ③ まあまあ 要求されている ④ 要求されている ⑤

在学中の習得

習得できなかった ① あまり 習得できなかった ② どちらも いえない ③ まあまあ 習得できた ④ 習得できた ⑤

9.同僚や仲間集団と協力して活動する協調性(コミュニケーション能力)

職場からの要求

要求されていない ① あまり 要求されていない ② どちらも いえない ③ まあまあ 要求されている ④ 要求されている ⑤

在学中の習得

習得できなかった ①	あまり 習得できなかった ②	どちらとも いえない ③	まあまあ 習得できた ④	習得できた ⑤
---------------	----------------------	--------------------	--------------------	------------

10.同僚や仲間集団と協力して活動する指導力(リーダーシップ)

職場からの要求

要求されていない ①	あまり 要求されていない ②	どちらとも いえない ③	まあまあ 要求されている ④	要求されている ⑤
---------------	----------------------	--------------------	----------------------	--------------

在学中の習得

習得できなかった ①	あまり 習得できなかった ②	どちらとも いえない ③	まあまあ 習得できた ④	習得できた ⑤
---------------	----------------------	--------------------	--------------------	------------

11. ITツール(word、excel、power point など)を場面や職務に応じて使う能力

職場からの要求

ほとんど 要求されていない ①	あまり 要求されていない ②	どちらとも いえない ③	まあまあ 要求されている ④	要求されている ⑤
-----------------------	----------------------	--------------------	----------------------	--------------

在学中の習得

ほとんど 習得できなかった ①	あまり 習得できなかった ②	どちらとも いえない ③	まあまあ 習得できた ④	習得できた ⑤
-----------------------	----------------------	--------------------	--------------------	------------

12.卒業後も向学心を持ち、生涯学び続ける意識や意欲

職場からの要求

要求されていない ①	あまり 要求されていない ②	どちらとも いえない ③	まあまあ 要求されている ④	要求されている ⑤
---------------	----------------------	--------------------	----------------------	--------------

在学中の習得

習得できなかった

①

あまり
習得できなかった

②

どちらとも
いえない

③

まあまあ
習得できた

④

習得できた

⑤



資料 3
平成 22 年度
金沢学院短期大学の教育改善に向けた
卒業時アンケート
集計結果

平成22年度金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業時アンケート

集計結果

1. 学生アンケート実施

実施日：平成23年2月～3月(各クラスで指定日に一斉実施)※欠席者は実施しない。

2. アンケート集計処理

短期大学全体	→	170名	専攻科を含まない
ライフデザイン総合学科	→	90名	
食物栄養学科	→	80名	

3. 短期大学全体のアンケート集計結果

(1) 評価が高い回答

問1-1. パソコン設備。

問1-3. スクリーン・プロジェクタなど映像設備。

問7. 本学で学んだことがあなたの将来に生きると思いますか。

問8. 在学中に多くの良い友人に恵まれましたか。

(2) 評価が低い回答

問2. 「学生なんでも相談」を利用しましたか。

問9. 本学を後輩に勧めたいと思いますか。(ただしこれは「学びたいことは人それぞれ」「進学したい人が進学すればよい」という回答も含む。

4. 両学科の比較、経年比較

※経年比較では、本年度卒業生より生活デザイン学科からライフデザイン総合学科に改組。

(1) 映像機器はライデ学生から高く評価され、教室環境は食栄学生から高く評価された。

(2) 毎年両学科とも良き友人に恵まれている。

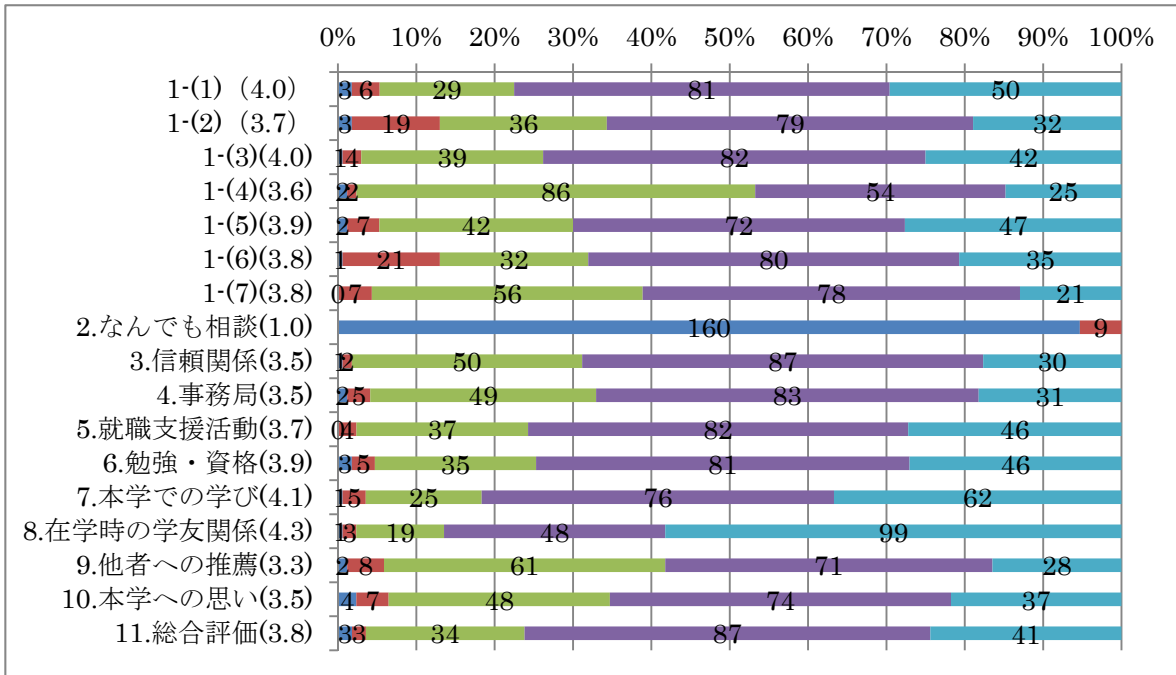
(3) これまでに「本学で学んだことがあなたの将来に生きると思いますか」の設問では、食栄学生の方が高く評価していたが、本年度は調査以来、初めてほぼ同じ結果となった。

(4) 経年比較では進学理由における「オープンキャンパス」「ホームページ」の割合が増加。

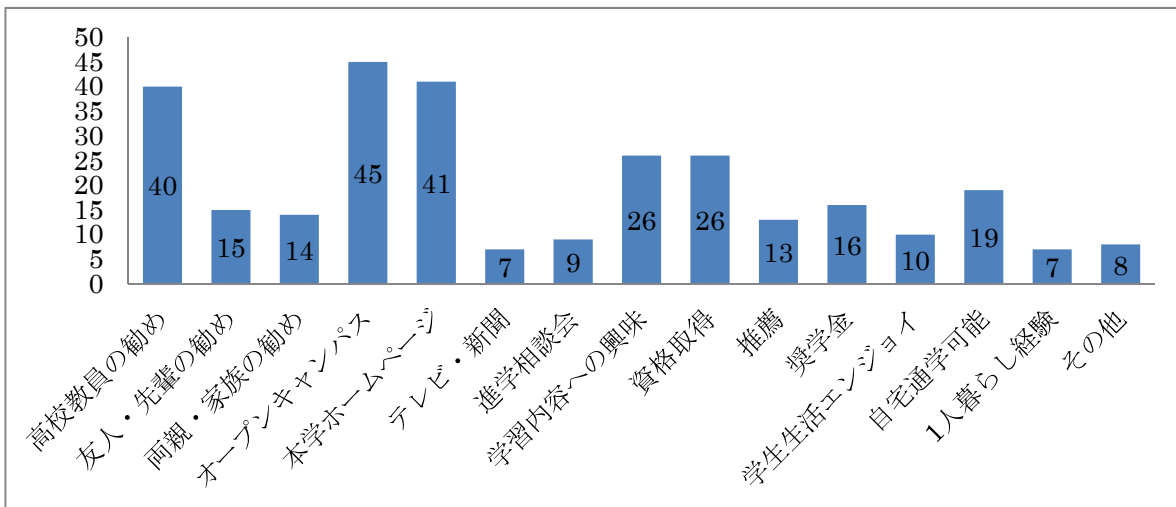
(5) ライデ学生は学習内容に興味を持って入学し、食栄学生は資格取得のために入学。

(小林淳一)

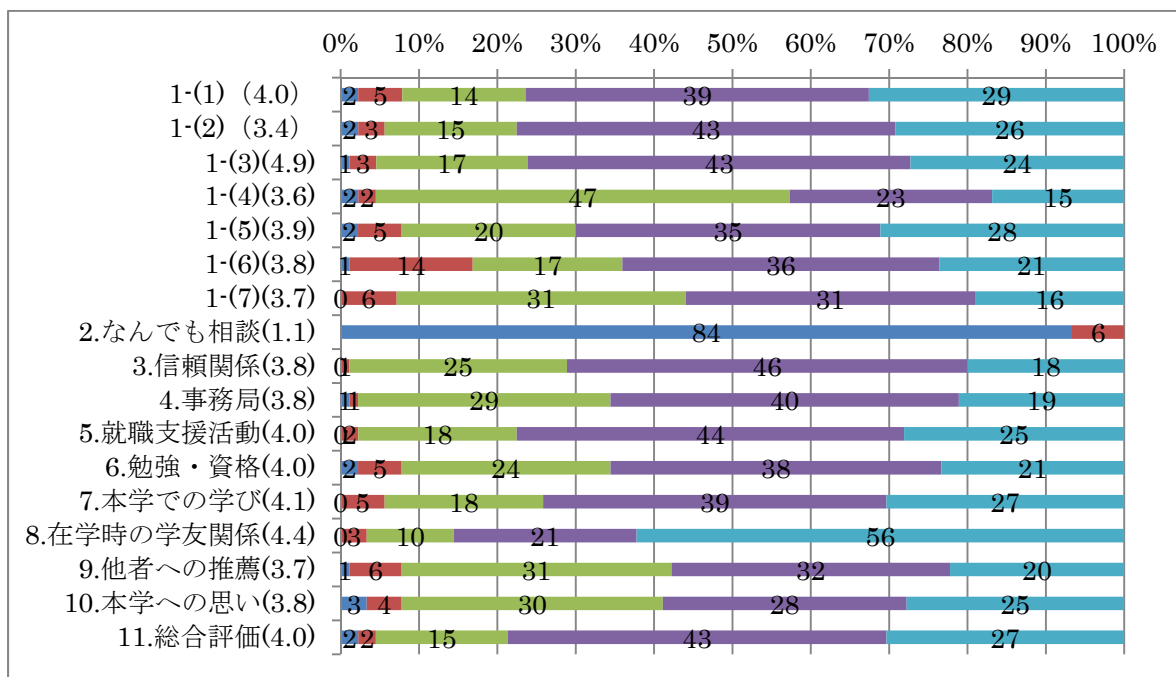
金沢学院短期大学 短大全体



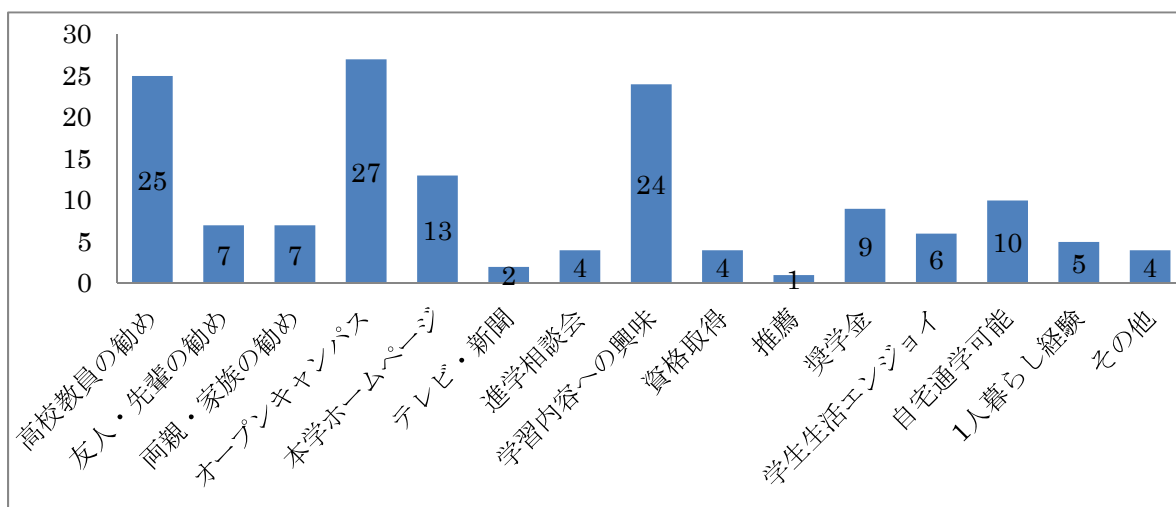
12.進学のかきかけ



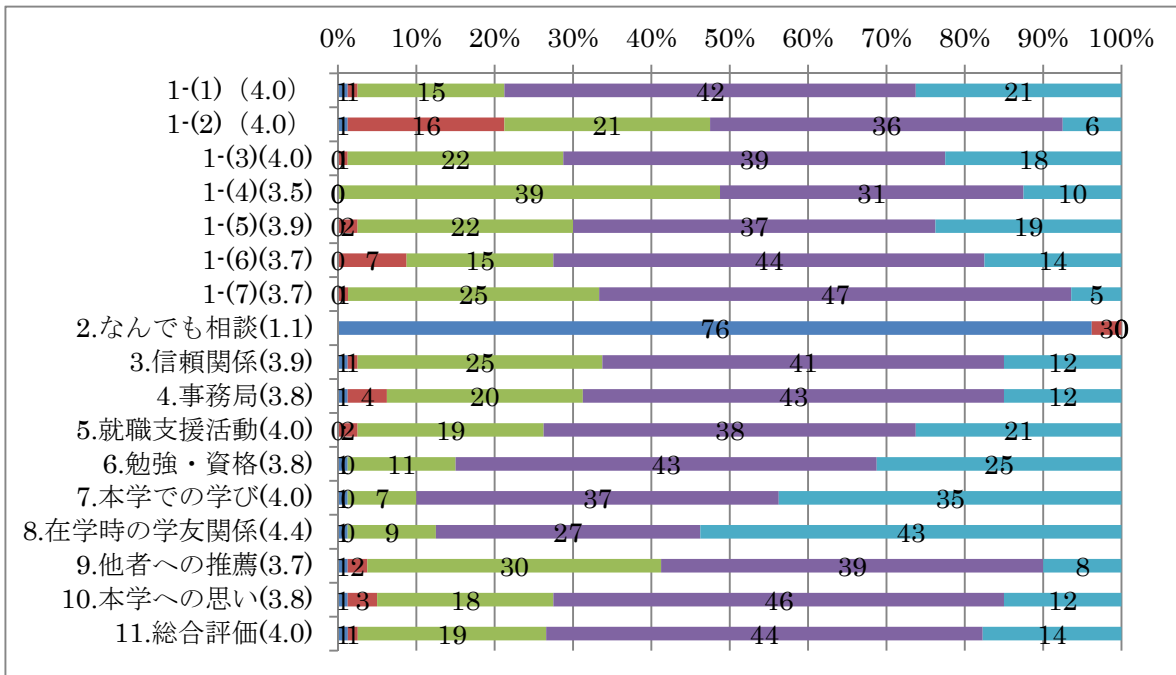
金沢学院短期大学 ライフデザイン総合学科



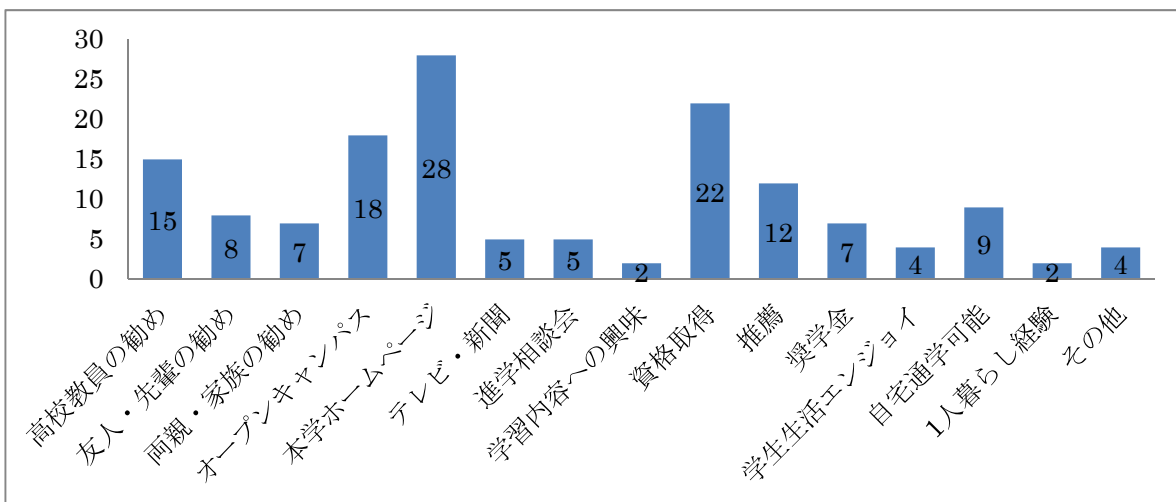
12.進学のきっかけ



金沢学院短期大学 食物栄養学科



12.進学のかっかけ



質問 13. 課外活動実績		・現代用語能力	1
・部活動	37	・スケッチ絵話	1
(うち 運動部	22)	・障害者スポーツ指導員	1
(うち 文化部	10)	・福祉住環境コーディネーター	1
・ボランティア	27	・プレゼンテーション実務士	1
・北陸三県私立短期大学大会	10	・「なし」	9
・サークル	8	・空欄	66
・学友会	7		
・オープンキャンパス	3	質問 15. 在学中特にながらったこと	
・学園祭	3	・バイト	49
・なわとび大会	3	・学業(授業、実習など)	43
・インターンシップ	1	・人間関係(友達、先生)	39
・就職活動	1	・家事	18
・ジャパンテント	1	・部活	17
・進学相談	1	・資格	12
・マネージャー	1	・趣味	11
・農業試験場見学	1	・卒業研究	9
・「しなかった・なし」	16	・就職活動	8
・空欄	76	・課外活動	6
		・一人暮らし	6
質問 14. 在学中に取得した資格一覧		・学友会	4
・漢字検定	27	・ボランティア	4
・栄養士	24	・絵本カフェ	2
・マナー検定	23	・家事と学業の両立	2
・コンピュータサービス技能評価	15	・全て	2
(うち ワープロ部門	14)	・バイトと学業の両立	2
(うち 表計算部門	1)	・北陸三県私立短期大学大会	2
・ビジネス文書	14	・運転免許	1
・社会福祉主事任用	10	・学生生活	1
・ファッション販売能力	10	・教職	1
・秘書検定	7	・子供歌舞伎出演、講師	1
・ファッションビジネス能力	6	・バイトと家事の両立	1
・色彩検定	5	・「なし」	2
・運転免許	4	・空欄	24
・赤十字救急法	4		
・栄養教諭	3	質問 16. 学生生活全般の思い出・要望	
・フードコーディネーター3		・シャトルバス	23
・医療事務	1	・食堂	22
・英語検定	1	・駐車場	22
・カラーコーディネーター1		・学生生活全般の充実	17

・除雪(要望)	6	・座禅研修	1
・学業	4	・自動販売機の充実	1
・通学	3	・世間の軽視	1
・Edyの使い方	2	・卒業研究	1
・大雪に対する配慮	2	・トイレ	1
・学園祭	2	・図書館	1
・売店	2	・入校時間の延長	1
・学業面以外での学び	1	・華がない	1
・喫煙室の確保(要望)	1	・一人暮らし	1
・教室の不便さ(要望)	1	・部活	1
・行事の充実(要望)	1	・不要な教科書の購入(要望)	1
・校外活動の送迎	1	・報奨制度	1
・コンビニが欲しい	1	・立地条件(要望)	1

金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業時アンケート

(実施日：平成23年 月 日)

このアンケートは、本年度卒業予定のみなさんの意見を参考にして、金沢学院短期大学の教育を今後より一層充実させるためのものです。本学の教育改善のため、2年間の学生生活の率直な感想を書いて下さい。

I. 名前、学科、クラス、名列番号を教えてください。

名前		名列番号	
学科・クラス	ライフデザイン総合学科	JT BC FW CV AF SI	ビ文
	食物栄養学科	A	B

II. 学生生活についてお尋ねします。以下の各項目に対して、あなたはどのように思いましたか。各項目について当てはまる番号を塗りつぶしてください。さらに、その理由や具体例について説明する場合は、下のスペースに自由に記述してください。自由記述はなるべく詳しく、率直な意見を書いていただけることを期待します。

1. 学内の施設や機器備品についてお尋ねします。

	不満が残った	どちらかと言えば 不満が残った	どちらとも いえない	どちらかといえば 満足した	満足した
(1) パソコン設備	①	②	③	④	⑤
(2) 机や椅子、黒板等教室の環境	①	②	③	④	⑤
(3) スクリーン、プロジェクタ等 映像設備	①	②	③	④	⑤
(4) スポーツ設備	①	②	③	④	⑤
(5) 図書館	①	②	③	④	⑤
(6) その他 短大全体の施設設備	①	②	③	④	⑤
(7) 食堂					

2. 「学生なんでも相談」を利用しましたか。

利用しなかった ① 利用した ②

3. 教職員との間に信頼関係はあったと思いますか。

そう思わない ① どちらかといえば ② どちらとも ③ どちらかといえば ④ そう思う ⑤

4. 短期大学事務局（教務部、学生部など）の対応はいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

5. あなたの就職活動について、教員・就職支援センターの対応はいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

6. 本学での勉強内容や資格・検定取得は、あなたの進路に役立つと思いますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

7. 本学で学んだことがあなたの将来に活きますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

8. 在学中に多くの良い友人に恵まれましたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

9. 本学を後輩に勧めたいと思いますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

10. 入学前と現在を比較して、本学に対する思いは次のうちのどれですか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

11. 総合的に判断して、あなたは本学で学んでいかがでしたか。

- | | | | | |
|--------|----------|-------|----------|------|
| | どちらかといえば | どちらとも | どちらかといえば | |
| 不満が残った | 不満が残った | いけない | 満足した | 満足した |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

12. 金沢学院短期大学に入学したきっかけを次の中から選んでください。いくつ回答してもかまいません。項目以外のきっかけがある場合は、『⑨その他』を選び、カッコの中に記述してください。

- | | | |
|------------------|-----------------|-------------------|
| ① 高校の先生に勧められて | ⑥ テレビや新聞の案内をみて | ⑪ 奨学金が支給されるため |
| ② 友人や先輩に勧められて | ⑦ 進学相談会に参加して | ⑫ 学生生活をエンジョイしたため |
| ③ 両親や家族に勧められて | ⑧ 学習内容に興味があったため | ⑬ 自宅通学が可能だったため |
| ④ オープンキャンパスに参加して | ⑨ 資格取得のため | ⑭ 1人暮らしをしてみたかったため |
| ⑤ 短期大学ホームページをみて | ⑩ 推薦を受けたため | ⑮ その他 () |

Ⅲ.以下の各項目に対して、あなたの意見・感想を教えてください。

13. 部活動・サークル活動・学友会活動・ボランティア活動などをしましたか。在学中に参加した課外活動を、全て書いてください。

14. 在学中にどのような資格を取得しましたか。取得した資格を、全て書いてください。

15. 在学中に、あなたが特にならしたことを書いてください。(複数回答可)

※学習内容、教師との会話、ボランティア、課外活動、読書、友人との交流、バイト、家事などどのような内容でもかまいません。

16. 質問項目の他に、通学環境（シャトルバスや駐車場など）、学生食堂、キャンパス全体など、金沢学院短期大学に対するあなたの意見や要望、さらには学生生活全般を通しての感想や思い出がありましたら、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

資料 4

平成22年度 第9回FD研修会 参加者アンケート集計結果

第9回FD研修会参加者アンケート集計結果

I. 開催日・出席者数

開催日 平成23年3月1日(火)

出席者数 36名

内訳 短大教員23名 金沢学院職員10名 その他教員3名

II. アンケート内容と集計結果

1. 学生・卒業生の意見を反映した授業改善・教育方法改善について

アンケート項目	選択数
①とても興味がある	8
②興味がある	20
③あまり興味がない	0
④興味が無い	0
合計	28

2. 学生・卒業生の意見を反映した授業改善・教育方法改善についての意見

- ・卒業アンケートの回収率の向上
- ・卒業時にクラス担任からアンケートを実施することを連絡する。
- ・卒業生の勉強をし直す機会に資格の取得があるのは”やはり”である。より一層在学生在に資格支援を行うべき。
- ・教員間で教育法を改善しようとする姿勢に温度差がある。
- ・学科単位、短大単位で教員においても一つの目標を設定しそこに向かう必要性を感じる。
- ・学生の要求にあるなしにかかわらず、学生が好ましく思う魅力的な(環境、施設等)キャンパスづくり。
- ・学生生活2年間に教員が何を教え、どこまで完成させるかが問われている。
- ・多くの回答が得られるよう、項目の削減化。
- ・長く学問に携わっていると見えなくなる部分も多いので、新鮮な意見として取り入れていきたい。
- ・回答者の本音を書けるよう。また、回答の内容について、検討していただきたい。
- ・社会での能力準備。常識的な考え方を養う。
- ・在学中とは違い、卒業後の意見はとても貴重であることから、継続を希望します。
- ・卒業・就職後に何が役立つか、学生時代に何を学んでおくべきだったかの回答が得られるため反映していきたい。
- ・全学を対象とする調査と併せて、各クラス数名に在学時、卒業時に個別にアンケート調査を実施するのも効果的。

3. 「卒業生アンケート」の設問について

	項目	非常に重要	不要	現状で良い
1	卒業年度	9	0	19
2	卒業学科	10	0	18
3	現在の住まい	7	4	17
4	現在の職業(主婦や求職中を含む)	7	0	21
5	本学在籍中に取得した資格・免許を全て記述	10	1	17
6	本学卒業後に取得した資格・免許を全て記述	9	1	18
7	現在取得のために勉強中の資格・免許があるか	9	1	18
8	問1. 物事を創造する能力(アイデア、企画立案、物事を発見し、作り出す能力)	4	2	22
9	問2. ふるさとへの愛着	3	4	21
10	問3. 地域社会に貢献する能力	6	2	20
11	問4. 良識と礼節(マナーや作法を含む)	7	1	20
12	問5. 当該専門分野の実践に必要な能力	8	1	19
13	問6. 当該専門分野の基礎知識を幅広く修め、応用する能力	9	1	18
14	問7. 提案・報告などを効率的に記述する能力(事務管理能力・文書表現能力)	6	2	20
15	問8. 提案・報告などを効率的に説明する能力(プレゼンテーション能力)	8	1	19
16	問9. 同僚や仲間集団と協力して活動する協調性(コミュニケーション能力)	7	1	20
17	問10. 同僚や仲間集団と協力して活動する指導力(リーダーシップ)	5	1	22
18	問11. ITツール(word,excel,power point 等)を場面や職務に応じて使う能力	6	2	20
19	問12. 卒業後も向学心を持ち、生涯学び続ける意識や意欲	5	2	21
20	問13. 工作中や進学先で能力に力不足を感じ、悔しい思いをした経験がある	14	0	14
21	問14. 現在、勉強し直す機会があるとしたら、第一番目に何を勉強するか	11	1	26
22	問15. 卒業生の視点から、金沢学院短期大学への率直なご意見	12	0	16

4. 今後の FD 活動についてなど、自由に記述して下さい。

- ・“ポストイット”を用いたグループ討論は活発な意見交換がなされている。時間を長くとってもほしい。
- ・“ポストイット”を用いたグループ討論は、人の意見に左右されないものが見られるのでよい方法である。
- ・“ポストイット”を用いたグループ討論の参加型の方法はうまく機能している。
- ・とにかく学院全体のポリシーをはっきりとし、確実に実行できるようにすること。夢ばかり追ってもいけない。
- ・FD活動は大学・短大の統一ルールや取り組みを実施して、徹底させる。
- ・多くの態度論から到達目標を早く引き出し、意決定、実行に移すことが急がれる。
- ・これからは、具体的な形をとった方策を実行していく段階である。
- ・具体的な改善案を実行に移せるように考えるべき。
- ・具体的な提案を実行し、着実に積み重ねることが重要。
- ・本学の教育理念「創造」を徹底させる方策を考え、実行してほしい。

- ・近々の話題として、導入教育、就職教育をカリキュラム内外に取り組むことについて議論を具体的に始めること。
- ・数年続けているが目に見えた変化がない。
- ・年に一つ課題を決め、教職員が徹底的に行い、ダメな事、継続すべき事を判断する。
- ・入学時に意見を持たせ、目的意識を明確にさせ、常識ある学生になり、卒業してほしい。
- ・いろんな意見や考え方を聞くことができ、面白い。テーマを変えて継続を望む。
- ・卒業生アンケートは興味深いデータなので、更に充実させたい。
- ・様々な意見を聞いて自分の知識のプラスになった。
- ・事前に資料を配布するなどして、研修会の時間を短縮してほしい。
- ・今回の企画、調査、発表のご苦勞に感謝。

編集 :金沢学院短期大学 FD 委員会
発行日 :平成 23 年 8 月 31 日